

## 【極秘マニュアル】

※注意事項: センシティブな内容も書かれているため、開示する範囲に注意してください。

### 【注意点】

ここに書かれていることは、その類型のすべての人に該当するわけではありません。

人間の数だけ個性があるため、各類型の中に何万人もの人が存在します。その中で、特に注意すべき傾向について記載しているので「一部の人はそういう特徴が出てしまうことがある」という程度のものだとご理解ください。

### 【目次】

※クリックすれば、当該箇所へ飛びます。

## 目次

【極秘マニュアル】 .....	1
PP 型の注意点説明 .....	2
PA 型の注意点説明 .....	5
PI 型の注意点説明.....	8
PD 型の注意点説明.....	11
AP 型の注意点説明 .....	15
AA 型の注意点説明 .....	19
AI 型の注意点説明 .....	22
AD 型の注意点説明.....	25
IP 型の注意点説明.....	29
IA 型の注意点説明 .....	32
II 型の注意点説明.....	35
ID 型の注意点説明 .....	38
DI 型の注意点説明 .....	41
DP 型の注意点説明.....	44
DA 型の注意点説明.....	48
DD 型の注意点説明 .....	51

## PP 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>PP 型は、思いついたことを直ぐに行動に移す行動力と、他人に対して気兼ねなく話しかけることができる社交性を持った活動的な類型です。</p> <p>ポジティブな人が多く、落ち込んでもすぐに回復するような性格の人が多いため、営業職や接客業等の高ストレス環境でも耐え抜ける人が多いです。</p> <p>ただ、その強度のポジティブさからくる大雑把な性格を持っているため、細かい作業や精密性が要求される作業を苦手としています。</p> <p>したがって、勉強が不得意な人が多い類型です。</p> <p>また、ポジティブであるがゆえに、自分の能力を過信しがちで、自分は特別な存在であるという錯覚を起こすことがよくある類型でもあります。</p> <p>褒められたり、少し上手く行ったりすると、すぐに調子に乗ってしまう傾向が強いため、羽目を外して大失敗すること多い類型です。</p>
達成型	<p>達成型 PP は、言いたいことをハッキリと言う類型で、かつ、極めて楽観的な性格をしています。そのため、自分自身に対して過信していることが多く、大抵は自分のことを優れた人間であると考えています。</p> <p>それゆえに失言も多く、失礼な言動を取ってしまうことが多い類型です。その結果、取引先からクレームをもらうこともしばしばあります。</p> <p>また、友人関係や同僚間でも時々失言によって関係性を悪化させることがあるので注意が必要です。</p> <p>そして、極めて大雑把な性格で、自分に甘く、他人に厳しいところがあるため、目標等を有言実行するタイプではありません。</p> <p>仮に責任の重いポジションについても、精密な調査や思考力は無いので、若干成功しづらい類型です。</p> <p>しかし、社交性が極めて高く、物怖じしない性格であるため、営業職での活躍は十分に期待できます。管理職としての適性は低いですが、プレイヤーとしては有能となる可能性があります。</p> <p>ただし、この類型で勉強が得意な人は稀であるため、高度な専門知識が必要となる営業職では活躍できないことが多いです。一方で、シンプルな作業のみで完結する営業職やテレマーケティング、接客販売等</p>

	では本領を発揮しやすい類型です。適性にあった職種に就いた方が、楽しく働けるでしょう。
効率型	<p>効率型 PP は、社交性が高く、かつ、合理性もあるので、比較的広い範囲で活躍が見込める人材です。</p> <p>営業職や接客系の対人折衝が多い職種ならば、大抵はこなしてくれます。</p> <p>また、ある程度年齢と経験を積んでいけば、管理職としても活躍できる人も一部存在します。</p> <p>ただし、管理職として活躍できるのは、何らかの専門分野を確立できた人だけで、単に営業職としての業績が良いからという理由だけで管理職にしまうと、論理性が乏しいがゆえにマネジメントで失敗しやすい類型です。</p> <p>そして、この類型は、合理主義であるがゆえによくサボる人が多く、業績を出すために努力をするというよりは、自分が楽をするために一生懸命努力する人が多いため、一見良さそうな人材に見えても、入社後に徐々に本性を出してきて（サボり始めて）後悔するということが起こりやすいです。</p> <p>頭の回転の速さや合理主義の特徴を自分のために使うタイプなのか、他人に貢献するために使うタイプなのかによって、人材としての有用性が大きく変わるため、その点を見極める必要があります。</p>
外見型	<p>外見型 PP の半数くらいは、自分をイケている人、かっこいい人、可愛い人、選ばれし者などと考えていて、特別な存在であると信じ込んでいます。そのため、ナルシスト気質が強く、過信が強い人が多い類型です。</p> <p>その根底にあるのは、根っからのポジティブ思考で、多くの場合、親もポジティブで、子どもを褒めて育てる方針であることが多いです。</p> <p>その上で、周りに自分を悪く言う人や間違いを指摘してくれる人が少ないと、勘違いしたまま大人になります。</p> <p>遠回しに指摘してあげたとしても、すでに自分を特別な存在であると信じ込んでいる場合は、焼け石に水です。</p> <p>この類型で仮に実力を併せ持っているのであれば、そこまで問題はないのですが、大抵の場合は過信があるがゆえに努力を怠るため、実力不足のまま年齢だけを重ねていきます。</p> <p>その結果、あまり大きな活躍は望めない類型といえます。むしろ、一部の人については、自分を特別な存在として扱ってほしいという欲求をそのまま他人に求める傾向があるため、組織内で若干の問題児となることも多いです。例えば、男女問わず、チャホヤしてもらうことを周りに求めたりするケースが比較的多く見られます。</p>

	<p>ただ、社交性は高いため、年齢が若いのであれば、専門知識を必要としない営業職、接客業などでは活躍することがあります。お酒に強い人も多いため、お酒を飲む機会が多い職種などでも重宝されるかもしれません。</p> <p>なお、残りの半数は、若干自意識や自尊心が強い人が多いものの、社会生活に大きな支障はなく、営業職や接客業で活躍が期待できる人材が多いです。</p>
情報型	<p>情報型 PP は、PP 型の中では最も優秀な類型で、大雑把ではあるものの、自分で一度は調査し、情報を集めることができる類型です。</p> <p>そのため、高い社交性とある程度の知性を併せ持っている類型であり、営業職等で活躍することが期待できます。</p> <p>若干難易度の高い営業職、例えば、証券マンや生損保営業、不動産営業等などでもある程度活躍する可能性があるため、営業職適性はかなり高い類型と言っていいでしょう。</p> <p>また、しっかりと教育を施せば、ある程度の経営管理業務もこなすことができるため、中間管理職クラスとしても重宝される類型といえます。</p> <p>もっとも、高度な専門性を必要とする経営層クラスには不向きで、どうしても他のより適性のある類型に遅れを取ってしまいます。</p> <p>そのため、組織内の平均的な学力が高すぎる職場では、思ったように活躍できないかもしれません。</p> <p>一方で、組織内の平均的な学力が低い職場であれば、相対的に上位に入る可能性が高く、活躍が見込めます。</p> <p>したがって、所属する組織を間違わなければ、比較的上手く行きやすい類型です。</p>
平和型	<p>平和型 PP は、PP 型を象徴するような類型で、明るく前向きで、誰とでも温和に接する人物が多い類型です。性格が良く、誰からも好かれるような人間性を持った人が多いので、どこの会社であっても活躍できる可能性があります。</p> <p>ただ、良い人であるがゆえに、部下や同僚に厳しく対応しなければいけない場面などでは、あまり強く出ることができません。</p> <p>それゆえ、上級管理職にはあまり適しておらず、中間管理職として活躍する人材といえます。</p>

	<p>また、基本的には大雑把な性格をしているため、勉学の分野で活躍する人は少数派です。それゆえ、高度な専門性が要求される専門職などではあまり活躍できないかもしれません。</p> <p>活躍が期待できる分野は、営業や採用担当など、他人と接する機会が多い職種です。対人関係を良好に保つ能力が高いので、そういうスキルを必要とする組織で働くと、重宝されるでしょう。</p>
--	--

### PA 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>PA 型は、明るく前向きな性格（P 型の特徴）と正確かつ慎重な性格（A 型の特徴）という正反対の特徴が同時に強く出ている類型であるため、特殊な類型の一種です。</p> <p>そのため、普通の人とはほとんど存在せず、変わり者が多い類型です。基本的な特徴は P 型なので、日頃は明るく前向きで、大雑把なタイプなのですが、何らかのスイッチが入った瞬間から、細かいところに目が行くようになり、完璧主義になったりします。この特徴が出ているときは、神経質になりやすいため、周りの人間に対しても若干批判的になりやすいです。</p> <p>日や時間によって性格的特徴がコロコロと入れ替わる類型なので、何を考えているかわからない人になりやすいです。その結果、それに合わせてくれる人が少なくなり、人付き合いで苦労しやすい類型といえます。</p>
達成型	<p>達成型 PA は、若干注意が必要な類型です。</p> <p>この類型は、基本的な型は P 型なので、ポジティブ思考で、明るく、社交的な人が多いです。そのため、初対面では問題がないように見えます。</p> <p>しかし、ある瞬間に突然神経質になったり、細かいところが気になってしまって、職人気質な人格に入れ替わったりします。特に、自分の専門分野で起きやすい現象です。</p> <p>その神経質な部分が自分自身の仕事の出来に対して向けられる場合は、単なるストイックな性格なので良いのですが、この類型の場合は、それを他人に対する攻撃性として出してしまうやすいという特徴があります。</p>

	<p>日頃は大雑把でテキトーなのに、自分の気分が乗っているときだけは細くなり、他人にも精度や正確性を求め、他人の間違いを指摘したり、批判したりするという感じです。</p> <p>いわば、自分のことを棚上げして他人には厳しくしてしまう人が多いのです。</p> <p>そのため、一部の人については、組織の中で嫌われてしまったり、浮いてしまったりしやすくなります。</p> <p>また、感情のコントロールが若干苦手な人が多いため、精神の浮き沈みが激しくなってしまう、躁鬱に近い精神状態になりやすい類型でもあります。</p> <p>さっきまでニコニコ楽しそうにしていたのに急に怒り出したり、急に細かくネチネチ説教したりし始めることがあるので、周りの人間からすると、何を考えているのかわからないという状態に陥ることがよくあります。</p> <p>もちろんこのタイプの全員がそういう人ではないですが、割合として多いので、注意が必要です。</p> <p>なお、営業職やエンジニア職などである程度の活躍をする人が多いですが、大活躍する人や管理職として成功する人は少数です。</p>
効率型	<p>効率型 PA は、明るく前向きなポジティブ傾向と正確性重視の慎重派傾向を同時に持っているので、他の PA 型と同様に、性格がコロコロと入れ替わりやすい類型です。</p> <p>そして、日頃から最も合理的な方法や、最も労力をかけずに成果を出す方法を考えていることが多いので、業務効率化などに適した人材です。</p> <p>基本的には明るい性格をしているので、営業職や接客業、人事職などで活躍することが多いです。</p> <p>ただ、この類型も一部注意が必要な人が存在します。</p> <p>なぜなら、この類型には「よくサボる」という傾向があるためです。日頃から合理的に生きているため、最終的に「どうやったら楽をして稼ぐことができるか」という論点に行き着いてしまう人が多いのです。</p> <p>その結果、極力仕事をせず（効率的に片付けて、お給料だけはもらおうという挑戦をし始める人がいます。</p> <p>例えば外回りの営業職であれば、最低限のノルマだけをこなして、あとは架空の予定を入れてずっとネットカフェで過ごしたり、1 時間で終わる仕事を 3 時間かかると言って余分に時間をもらい、2 時間は遊ぶなどを始めます。</p> <p>上手にバレずにサボる人が多いですが、大雑把な性格ゆえに、賢い上司にはすぐにバレます。</p> <p>そのため、そういうリスクがある人材であることを認識した上で採</p>

	<p>用することが必要な類型です。</p> <p>適性職種としては、営業職、エンジニア、接客業、業務改善職種などに向いています。</p>
外見型	<p>外見型 PA は、コロコロと性格的特徴が入れ替わる PA 型の特徴に加えて、他人からの評価を気にしやすい傾向が有しています。</p> <p>そのため、その場その場で、他人からよく見られるように（悪い評価を受けないように）自分を演じやすいという傾向を有しており、本来の自分の個性が本人でもわからなくなっていることが多い類型です。</p> <p>そして、一部の人のに関しては、自分の評価を上げるために、無意識的に嘘をついてしまう傾向があり、自分の失敗やミスを誤魔化しやすい人が多いです。</p> <p>また、他人からの承認を過度に求めてしまう人も相当数存在し、承認欲求が強くなりすぎる傾向も有しています。そのため、就職や転職で採用する場合は、経歴を盛ってしまう傾向があったり、業務上重大なミスを隠してしまう傾向があったりするので、注意が必要な類型です。</p> <p>なお、この類型は、年齢や経験を積み重ねて適切な教育・指導等を受けることで、自分の承認欲求や見栄を張る傾向をコントロールできるようになっていきますが、それらの教育・指導等を運悪く受けられなかった場合は、若干こじらせる可能性を有しています。</p> <p>適性のある職種としては、営業職や接客業に向いています。</p>
情報型	<p>情報型 PA は、同じ PA 型系統の中では優秀な人が多い類型です。</p> <p>この類型は、自分の性格的特徴がコロコロと入れ替わってしまうこと、テンションの上がり下がり激しいこと、感情のコントロールが苦手であることなどをある程度自覚している人が多く、なんとかしてそれらをコントロールしようと努める傾向があります。</p> <p>それゆえ、若くして自分の感情のコントロールを学習することが多く、対人関係であまり支障を来さない人材になっていきます。</p> <p>また、ある程度自分で調べて学習する能力も有しているため、多少難易度の高い営業職等でも活躍し得る人材です。その他にも、エンジニアや各種専門職としても活躍する可能性があります。</p> <p>ただ、若い頃は他の PA 型と同様に、感情やテンションのコントロールで苦勞することが多いため、年齢が若い間は失敗しやすい類型であることは変わりません。</p>

	<p>この類型を採用する場合は、どの程度学習習慣が身についているかをよく分析すると良いでしょう。若くしてしっかりと学習習慣が身についている人材であれば、先々の大きな成長が見込めます。</p> <p>適性職種は、エンジニア、デザイナー、営業職全般、接客業全般、テレマなどです。</p>
平和型	<p>平和型 PA は、PA 型の中で、最も問題を起こしづらい類型です。感情やテンションのコントロールに苦労する点は他の類型と同様ですが、周りの人間の感情に配慮できる人が多いため、あまり対人関係のトラブルを起こすことはありません。</p> <p>ただし、アルコールが入るとタガが外れることがあるため、注意が必要です。お酒やギャンブルなどにハマりやすい類型でもあるので、その点はあらかじめ確認しておいた方が良いでしょう。</p> <p>なお、この類型は、接客業や簡単な営業職に多い類型で、大きな活躍をするというケースは少数派ですが、平均的な活躍はできることが多いです。そのため、ある程度人員数を揃える必要がある部署の接客スタッフ、営業スタッフとして重宝されると考えられます。</p> <p>その他、人事（採用担当）やエンジニアなどとして活動する人も多く、コミュニケーション能力に支障がない人材が多い印象です。</p>

## PI 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>PI 型は、明るく社交的な P 型の要素と優柔不断で気を遣いがちな I 型の要素を併せ持った類型で、日本人にはかなり多い類型の一つです。</p> <p>この類型は、一定の社交性と気遣いを両方持っていることが多いため、誰とでも仲良くなれますし、どこの組織でも適応しやすく、周りに合わせる人が多いです。</p> <p>そのため、特段問題もなく、普通に無難に平均的（または平均より少し下）な活躍をすることが多いです。</p> <p>ただ、基本となる特徴は P 型であるため、大雑把で細かいことが苦手です。それゆえに、勉強が得意な人は少数派で、この類型の大半の人が勉強を苦手としています。</p>



	その結果、難易度の高い専門職で活躍しているケースは稀です。接客業や簡単な営業職、事務職等での平均的な活躍が目立ちます。
<b>達成型</b>	<p>達成型 PI は、PI 型としての特徴に加えて、曲げず嫌いな特徴と、言いたいことをハッキリ言ってしまう特徴を併せ持っています。</p> <p>それゆえ、自分が納得のいかない出来事に遭遇すると、その鬱憤を言葉で表現してしまう傾向が強いです。PI 型であるため、ある程度までは我慢するのですが、徐々に周りに愚痴をこぼし始め、最終的にはストレスの原因となっている人と喧嘩してしまうことが多くなります。そのため、若干対人関係のトラブルを起こしやすい類型といえます。そしてこのタイプの厄介なところは、愚痴や批判自体は正論なことが多いのですが、本人の実力が不足していることが多いため、周りから「君が言えることではないよね」と思われがちな点です。</p> <p>実力者がいう批判と実力不足者がいう批判とでは、受け取られ方が全く異なるため、少々手間がかかる人材となる可能性があります。</p> <p>また、基本的な特徴が P 型であるため、根が大雑把で、自分の能力を過信しやすい傾向があります。それゆえ、高度な専門性や勤勉性などを持ち合わせている人は少数派で、年齢を重ねたとしても高度な専門人材または経営人材になる可能性は低いです。</p> <p>したがって、採用する場合には若干のリスクが伴う類型といえます。それでも一部の人材については、単純な営業職や接客業等で短期的に活躍することがあります。</p>
<b>効率型</b>	<p>効率型 PI は、PI 型の特徴に加えて、効率重視の合理主義傾向が強い類型です。それゆえ、仕事をテキパキとこなしてくれる人が多く、事務方の人材として活躍することが多い類型です。</p> <p>そしてこの類型は、社交性もある程度高く、他人に対しての配慮もある程度できる人が多いため、一般社員としてバランスが良く、社内の調整役として機能します。</p> <p>また、業務改善やルーチンワークの効率化などにも適性があるため、営業事務、一般事務、接客販売、簡易的な営業職などで活躍し得る人材です。</p> <p>そのため、将来の管理職候補としてよりは、広く一般事務や一般的な営業スタッフとしての適性が高いです。日本人の中にはかなり多い類型であるため、どこの組織にも一定数存在する平均的な人材です。</p> <p>ただ、一部の人については、合理主義が悪い方向に作用し、サボり上手になってしまうことがあります。その場合はあまり活躍が見込めないため、注意が必要です。</p>

外見型	<p>外見型 PI は若干注意が必要な類型です。</p> <p>この類型は、大きく分けて 2 つのタイプが存在します。</p> <p>まず 1 つ目が、自意識過剰タイプです。このタイプは、自尊心や自意識が肥大化してしまい、常に他人からの称賛を求めてしまう傾向があります。職場でその本性を見せる場合と見せない場合がありますが、いずれにしても、他人からの称賛を強く求めてしまい、SNS 等で裏垢を作って発散したりする傾向があります。そのため、どこかの時点では問題を起こしやすい類型といえます。</p> <p>もう一つのタイプは、他人からの評価を過度に恐れてしまうタイプです。このタイプの人は、他人から怒られたり、批判・否定されたりすることを過度に恐れてしまう傾向があり、常に不安を抱えながら生活しています。過去に何らかのトラウマを抱えていることが多く、その影響で他人からの評価を過度に恐れてしまいます。</p> <p>この傾向があまりに強い場合は、自分で自分を精神的に追い詰めてしまうことがあり、精神的な病にかかってしまうこともあるため注意が必要です。</p> <p>上記 2 つのタイプ以外の人であれば、特に問題はなく、一般的な PI 型としての特徴を有する平均的な人材です。なお、この類型は演技もある程度上手な人が多いため、仮に精神的な問題を抱えていたとしても、上手く誤魔化せる能力を持っています。ゆえに、面接で見抜くのは至難の業です。</p>
情報型	<p>情報型 PI は、PI 型の特徴に加えて、知識の修得や調査・分析に重きを置く傾向がある類型です。</p> <p>PI 型の中では優秀な人材が多い類型で、専門知識を必要とする営業職や事務系専門職などで活躍する人材が多いです。</p> <p>この類型は、基本的にはポジティブ思考なので、社交性も高く、人当たりも良いです。それと同時に、不安症でもあり、自分の将来のため、または失敗を避けるために、行動する前によく調べて準備する傾向があります。そのおかげで、PI 型の中では失敗が少ない方で、安定した評価を受ける傾向があります。</p> <p>また、素直な性格をした人が多いため、上司からの評判も良いことが多いです。</p> <p>なお、この類型が大きく成長するか否かは、良い師に巡り会えるかにかかっています。この類型は自分で勝手に天才になっていくタイプではなく、適切な時期に適切な指導を受けて成長していくタイプです。</p>

	<p>そのため、良き上司の下で働ければ成長速度が早くなり、悪い上司の下で働ければ平均以下の人材になります。</p> <p>このタイプの転職を成功させるためには、直属の上司の質が重要になるため、その点を重視して進めると良いでしょう。</p> <p>主な適性職種は、事務職、各種専門職の事務員、接客業、簡易的な営業職などです。</p>
平和型	<p>平和型 PI は、最も PI 型らしい類型で、性格がとても良い人が多く、基本的には誰からも好かれる(嫌われにくい)タイプの人が多いです。</p> <p>この類型は、組織の中で潤滑油としての役割を果たし、人間関係を良好に保つのに貢献します。日頃から明るく社交的で、他人に対しても優しい言動をすることが多いため、あまり悪い評価を受けることはありません。</p> <p>ただ、能力が飛び抜けて優れている人は稀で、多くの人は、平均か平均の少し上辺りの能力です。そのため、上級管理職としてはあまり活躍できないことが多く、中間管理職やスタッフとしての活躍が目立ちます。組織にとって必要な人材ではあるものの、飛び抜けた才能や能力を持った人が極僅かであるために、転職等では若干苦勞するかもしれません。</p> <p>しかし、人柄を重視して採用している会社ではすぐに採用される傾向があるため、そのような会社を狙い撃ちすると、成功確率が上がりやすいでしょう。</p> <p>適性職種としては、接客業に最も向いており、その他簡易的な営業職、事務職、テレマ、受付、秘書などの適性も高いです。</p>

### PD 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>PD 型は、P 型系統の中では特に優秀な類型で、営業職、経営者、個人事業主等で活躍する人が多い類型の一つです。</p> <p>卓越した社交性と行動力、そして合理性も併せ持っているため、ビジネスの世界で目立った活躍をする人が多く、どこの業界でも重宝される可能性が高い類型です。</p> <p>ただ、全員が優秀であるわけではありません。</p>

	<p>この類型は、基本的には P 型の性格であるため、大雑把ですぐに飽きる傾向があり、面倒なことに対してはすぐにサボりぐせが出る傾向があります。</p> <p>そして、若干利己的な考え方をする人が多いため、若い頃は大きな失敗をしやすいです。</p> <p>また、中途半端に器用な人が多いため、なんでも人よりすぐに出来てしまう傾向が強く、それゆえに調子に乗りやすいところがあります。その結果、自分が特別な存在であると誤解し、努力をしなくなる人も多いです。</p> <p>そうなると、単に社交性が高いだけの勘違いとして終わるので、注意が必要な類型です。</p> <p>そして、この類型は、若干スリルを好む傾向があるため、お酒やギャンブル、または異性などにハマりやすく、それで身を滅ぼす人が多くいます。この点にも注意が必要です。</p>
達成型	<p>達成型 PD は、PD 型の中で、最も営業職に適した類型で、多くの人が営業分野・対人交渉分野で結果を出します。勝ち気な性格の人が多く、好戦的で、負けず嫌いです。それゆえに、数字でランキングが出るような職業では本気になりやすく、勝ちやすいです。</p> <p>しかし、その勝ち気な性格と負けん気の強さから、他人に対して失言や暴言を吐くことが非常に多く、社内外問わず、対人関係のトラブルをよく起こす類型でもあります。</p> <p>年齢を重ねるに連れて人格的に成長していけば、程良く優秀な人材になっていくのですが、若い頃は手をつけられないほどの悪童になる可能性があります。一步間違えば犯罪行為にも手を出しかねない類型なので、扱いには注意が必要です。</p> <p>この類型の成功は運次第なところがありますが、適切な指導者の下で育てば、類まれな才能を発揮し、その分野でトップクラスの結果を出すことも多いため、指導者次第で善にも悪にもなりうる人材といえます。</p> <p>中には、勉強の分野で突出した結果を出し、東京大学等に合格する人も一部存在します。</p> <p>いずれにしても、特別な能力・才能を持った可能性が高い類型であるため、慎重に特徴と能力を見極め、適切な職場を見つけてあげると良い結果を出す類型です。</p>

	<p>なお、独立心もかなり強いため、誰かの下で働き続けることには向いておらず、先々は独立する可能性も高いです。</p> <p>適性職種は、営業職、コンサル職、個人事業主、経営者、投資家、事業開発、管理職等です。</p>
効率型	<p>効率型 PD もかなり優秀な類型の一つで、様々な分野で活躍し得る人材です。日頃から明るく前向きに振る舞い、活動的で、合理性も有しているため、ビジネスで高い評価を受けることが多いといえます。</p> <p>特に業務効率化や論理的思考が必要になる職種での活躍が目立ち、経営者、フルコミッション型の営業職、人事、経営戦略、経営コンサル等で活躍する人材が多い類型です。</p> <p>ただ、この類型も基本的には P 型なので、勉強が苦手（嫌い）な人も多く、何とか努力せずに人生を乗り切ろうとしがちなどころがあります。</p> <p>また、サボりぐせがあるのは他の PD 型と共通しており、いかに楽をして多くの利益を得るかに頭を使う人が多いです。</p> <p>そのため、ちょっと目を離すと上手にサボり始める傾向が強く、上司としては管理が難しい人材といえます。本人がやる気を継続できる目標を見つけてあげれば、ずっと集中して高い業績を出し続けるのですが、それが見つかるかどうかは運次第です。</p> <p>いずれにしても、地頭が良い人が多いため、平均的な業績であれば話術だけで何とかなってしまいます。ポテンシャル自体はとて高い人が多いため、育て方次第です。</p> <p>そして、この類型は、他人から管理されることを嫌う傾向が強いため、上下関係が厳しい職場やルールが厳格な場所では、ストレスを抱えやすい類型です。そのため、制度が整っていない緩いベンチャー企業等の方が活躍しやすいでしょう。</p>
外見型	<p>外見型 PD は、優秀な人とそうでない人の差が激しい類型であるため、注意が必要な類型の一つです。</p> <p>まず優秀な層から説明すると、この類型の上位層については、何らかの専門分野を持っており、かつ、自分を上手に演じ分けられる人材で、プレゼン能力が非常に高く、比較的自己愛が強いです。自分の能力の高さを確信しており、自尊心も高く、プライドも高いです。このタイプの人は、営業職、M&amp;A コンサル業、経営コンサル業、人材紹介業等に多く、経済的意味では成功しやすいタイプの人たちです。ただし、ナルシスト傾向がとて強いため、組織内で好かれるかどうかはわかりません。</p> <p>次に、中間層に多いのは、自意識が過剰になりすぎて、実力以上の自信（過信）を持っているタイプの人です。若い世代に特に多く、実力</p>

	<p>不足であるという自覚が足りないため、ナルシストの性質だけが強く表に出てしまい、組織内で浮いてしまいやすくなります。ただ、いざというときの演技は上手であるため、採用面接の段階でその特性を見抜くことは難しいかもしれません。</p> <p>最後に、下位層については、典型的なビクマウス傾向があり、口では大きなことを言いますが、実力と結果が伴わないことが多く、履歴書や経歴書等ですぐに見抜けてしまう傾向があります。ただ、比較的話術に長けている類型であるため、ふとしたときに信じてしまいそうになることがあります。その点には注意が必要でしょう。</p> <p>それ以外の人たちは比較的まともで、若干他人の目を気にして批判や否定を恐れてしまうこと以外は普通の社交的な人材です。一般的な営業職・接客業・人事などの職種では支障なく活動できると思われます。</p>
情報型	<p>情報型 PD は、PD 型系統の中で最も優秀な人材が多い類型です。PD 型の弱点として、知識面が弱く、地道な努力が苦手で、すぐに飽きてしまうという傾向がありますが、この類型は、その点が補強されており、自分で情報を集め、学ぶことができる人が多いです。</p> <p>そのため、高度な専門性を必要とする職種、たとえば M&amp;A アドバイザー、専門職特化型の人材エージェントなどとして実務界で活躍する人も多くいます。</p> <p>この類型は、社交性も高く、合理的に考える思考力も持っていることが多いため、上記のような高度専門職以外にも、営業職、管理職、コンサル職など幅広い分野での活躍が見込めます。</p> <p>ただ、この類型の全ての人が優秀であるわけではないので、あらかじめ見分けやすい項目を知っておくと良いでしょう。</p> <p>そもそもこの類型の優れた人材は、若い頃から学習の重要性に気づいており、日頃から学ぶ習慣が身についています。そのため、履歴書の学歴欄・資格欄を見れば、優秀な人材かどうかの判別がある程度可能です。優秀な人材は、学生時代から結果を出していることが多いので、学歴もよく、資格も複数保有していることが多いです。</p> <p>仮に学歴も資格もあまり良いとはいえない場合であっても、先々成長する可能性があるため、若干難易度の高い営業職や企画職、コンサル職等で推薦してみても良いかもしれません。本人がその仕事にハマってくれば、自発的に学んでいくため、飛躍的に能力が向上していきます。</p>

平和型	<p>平和型 PD は、PD 型の中では最も問題を起こさない類型で、友人も多く、誰からも一目置かれるような人材が多いです。そのため、どここの会社に入ってもある程度成功する可能性があるため、あまり不安な点がありません。社交性も高く、誰とでも仲良くなれ、かつ、周りの人間への配慮もできるため、管理職としても重宝される人材といえます。</p> <p>また、将来の成長可能性も高いため、良い指導者・上司の下で働けば、先々の大きな成長が見込めます。特に営業職への適性が高いため、人と接する機会が多い職種に就くと成功しやすいでしょう。</p> <p>ただ、他の PD 型と同様に、若い頃は調子に乗りやすいところがあり、努力を怠ることがよくあります。そのため、出会う人（教師や上司等）との縁がなかった場合は、調子に乗ったまま中年を迎えてしまうため、普通の人で終わってしまいます。面談を通じて、将来の夢や現在努力していること、過去の業績などをよく吟味し、努力できる人かどうかを見極めると良いでしょう。</p> <p>適性職種としては、接客業、営業職全般、中間管理職、コンサル職、その他、人と接する職業全般です。</p>
-----	---

### AP 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>AP 型は、前述した PA 型と同様に、正確かつ慎重な性格（A 型の特徴）と明るく前向きな性格（P 型の特徴）という正反対の特徴が同時に強く出てしまっている類型であるため、特殊な類型の一つです。</p> <p>この類型には普通の人とはほとんどおらず、大抵は何らかの性格的特殊性を抱えているケースが多いです。</p> <p>この類型の基本類型は A 型であるため、日頃は正確かつ緻密な仕事をして、慎重に生活しています。それゆえ、通常時は仕事ができる良い人材といえます。</p> <p>しかし、突然 P 型の特徴が強く出てきて、急にテンションが上がったり、社交的になったりします。そして、P 型の特徴が強く出ているときは、仕事の精度も落ち、雑になってしまいます。</p> <p>このテンションの乱高下をある程度コントロールできている人は優秀な人で、自分の弱点をよく理解している人なので、あまり心配はいりません。</p>

	<p>一方で、自分のテンションの乱高下に振り回される人は、感情の浮き沈みが激しいように見えてしまうため、若干付き合いづらさがある人材となってしまいます。そのため、周りの理解が必要な人材であり、職場によって相性の良し悪しが強く出てしまいやすい類型といえます。</p>
達成型	<p>達成型 AP は、AP 型の中では最も厄介な類型です。</p> <p>というのもこの類型は、日頃は A 型の特徴が強いため、細かいところまで気を配って生きていることが多く、緻密な仕事をします。それゆえに、こだわりが強く、自分の思っているとおりに仕事を進めていきたいという欲求が強い人が多いです。そして、しばしば表出する P 型の特徴（積極的で活動的な特徴）によって、周りに対してハッキリと自分の意見を言ってしまうがちです。その言い回しに配慮がないことが多いため、周りの人間を不快にさせることがあります。</p> <p>そして、他人にハッキリと自分の意見を言う割には、自分自身の仕事では正確なときと大雑把なときがコロコロと入れ替わるタイプであるため、周りからすると納得がしづらく、その結果ただの批判家と認識されやすいです。</p> <p>また、こだわりが強い傾向がある人も多いため、言い方がキツイ人も多く存在します。その結果、対人関係のトラブルを起こしやすい類型といえます。</p> <p>年齢や経験を重ねることで、言い方をマイルドにしたり、そもそも余計なことを言わないという技術が身についてくるのですが、若い頃はコントロール技術が未熟で、問題を起こしやすいでしょう。</p> <p>面接では上手に隠す傾向があるため、見抜くのは難しいですが、慎重に審査を進めた方が良い類型です。</p> <p>向いている職種は少ないですが、エンジニアやデザイナー、技術系職種などの職人気質が許される職種での活躍が目立ちます。言い換えると、そういう職種でないと許容されないかもしれません。</p>
効率型	<p>効率型 AP は、AP 型の中では優秀な方に属する類型で、A 型の特徴がより強いタイプです。そのため、日頃から正確性に気を配っており、効率的に業務をこなしてくれます。それゆえ、ある程度仕事ができる人材として認識されやすいでしょう。</p> <p>ただ、他の AP 型と同様に、正反対の特徴がコロコロと入れ替わって現れてしまうため、どういう人間なのかを周りが把握しづらい傾</p>



	<p>向があります。</p> <p>また、合理的な価値判断をする傾向が強い類型であるため、一歩間違うと、より楽をして多くのお金を得るためにはどうすればいいかを考え始め、サボり始める類型でもあります。</p> <p>自分の好きなことを仕事にできた場合は何時間でも喜んで働くのですが、あまり興味のない職種に就いてしまうと、サボり傾向が出てきます。</p> <p>この類型が転職で失敗しないようにするためには、好きなことを職業にするしかないため、何に興味を持っているかをよく聞き、それに近い職種を紹介すると良いでしょう。</p> <p>仮に好きなことが全くない状態、または好きなことが仕事にはなりそうにない場合は、やり方次第で多くの報酬を稼げるような職種を案内するとハマりやすいです。</p> <p>この類型はゲーム感覚で業務を攻略していく傾向が強いため、創意工夫で年収が上がるような職種で本領を発揮しやすいです。</p> <p>活躍が目立つ職種は、エンジニア、プログラマー、製造業等の技術職などです。</p>
外見型	<p>外見型 AP は、大きく分けると 3 つのタイプが存在します。</p> <p>まず 1 つ目が、ナルシストタイプで、自分は能力が高い人間であると信じ込んでいるタイプです。このタイプは、自分が失敗するはずがないし、失敗なんてできないと思っていて、それ相応の努力もします。そのため、平均よりも高い能力を保有していることが多く、それなりに優秀な人材が多いです。ただ、年齢が若い頃は、自分のテンションの乱高下に振り回され、かつ、実力もまだまだ不足していることが多いため、承認欲求だけが肥大化して見えることが多く、若干鼻につく性格をしているという印象を持たれがちです。</p> <p>2 つ目が、過度に他人からの批判・否定を恐れるタイプです。このタイプは、常に他人からどう思われているかを気にしてしまうため、怯えながら生活をしている状態です。他人から悪い評価を受けないように注意を払って生きていることが多いので、あまり大きな挑戦はせず、コツコツと言われたことを実行していく人が多いです。</p> <p>最後は、一般的な外見型 AP タイプで、他人から褒められたい、称賛されたいという欲求が一般人より高く、かつ、他人から批判されたくない、否定されたくないという欲求も同程度に強いタイプです。他人から認められたいが、失敗はしたくないという感情が強いため、その場その場で、他人から気に入られるように自分を演じ分けている人が多く、その結果、個性が見えづらい人材（飛び抜けた才能がない無難な人材）となりやすいです。</p>

	<p>いずれのタイプでも、組織の中で飛び抜けた結果を出す人は少数派です。</p> <p>向いている職種は少ないですが、エンジニア、技術職等で活躍する人が一部存在します。</p>
情報型	<p>情報型 AP は、AP 型の中では優秀な人材が多い類型です。この類型は、自分の専門分野を持っている、または持とうとしている人が多く、その分野についてはよく学びます。そのため、専門職としての適性が高く、エンジニア、経理財務、法務、労務などの適性が高い類型です。専門職以外にも、事務方の職種には全般的に適性があり、単純な事務から高度な専門事務までこなしてくれる可能性が高い人材です。</p> <p>ただ、この類型も AP 型であるがゆえに、性格の入れ替わりが頻繁に発生します。そのため、よりハイクラスな人材が多い AA 型・AD 型・DA 型などには敵わないことが多く、専門職としてもトップ層まで行ける人はごく僅かです。一般的な業務であればある程度できるため、スタッフ層や中間管理職クラスとしては重宝される人材です。</p> <p>一方で、あまり社交的ではない人が多いため、営業職にはあまり適性が無く、営業分野で活躍できる人材は少数です。無理に営業をさせようと精神的に負荷がかかりすぎることもあるので注意が必要です。</p>
平和型	<p>平和型 AP は、AP 型の中では対人関係のトラブルが少ない類型で、比較的誰とでも仲良く過ごすことができます。</p> <p>このタイプの社交性はそこまで高くないので、営業職には不向きですが、事務方またはエンジニア等の技術職としては正確な仕事をする人が多いため重宝される傾向があります。</p> <p>また、比較的器用な人が多いため、簡単な営業事務やテレマスタッフなどであればできると考えられます。しっかりとしたマニュアルがあるような業務であれば大抵のことはこなせるでしょう。</p> <p>なお、この類型も AP 型である以上、性格的特徴が頻繁に入れ替わってしまう傾向はありますが、この類型は自分の弱点に気づいていることが多く、自分でコントロールしようと努力する人が多いです。そのため、若くしてある程度感情のコントロールができるようになる人が多く、感情の浮き沈みも他の AP 型と比べると安定しやすい類型です。</p>

## AA 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>AA 型は、純粋な A 型類型で、慎重かつ正確に物事を進めていきたいという傾向が強い類型です。この類型は、日頃から情報を集めることが趣味のようなところがあり、様々な選択肢を総合的に考慮してから判断を下したいという欲求が強く、すべての選択肢を吟味しない限りは動きたくないとすら感じている人も多いです。</p> <p>後述する I 型系統は決断まで「時間がかかる」類型ですが、AA 型は「あえて時間をかける」類型といえます。性格的には若干細かくて、面倒くさい人材も多いですが、その分正確な仕事をしてくれるため、専門性が必要となる職種や正確性が重要視される職種での活躍が目立ちます。</p> <p>このタイプの平均的な学力は比較的高いことが多いため、理系研究者や数字を扱う職種（経理・財務等）に適性があります。</p> <p>一方で、社交性は低いことが多いため、営業職への適性はかなり低いです。交友関係を広げること自体に魅力を感じていない人も多いため、過度に人と関わらないといけなような職種に就くと、ストレスですぐに精神的に疲れてしまいます。</p> <p>したがって、AA 型系統に紹介する職種は、事務系職種、技術系職種にした方が無難です。</p>
達成型	<p>達成型 AA は、AA 型の正確性に加えて、高い分析力と批判能力を持っている類型です。自分の専門分野においては誰よりも深く学ぼうとする傾向があるため本来的に専門職に向いていますが、その知識量と分析力の高さから来る鋭い指摘や批判によって、組織内で浮きやすい類型です。なお、指摘についてはいつも正論で、正確です。</p> <p>その特徴を持っているがゆえに、組織内の平均的な分析能力が低い職場だと、単なる批判家として認識されてしまい、良い評価をされない傾向があります。そのため、選ぶ職場を間違えると、せっかくの才能が埋もれてしまいやすい類型といえます。</p> <p>この類型が転職で成功しやすいのは、本人が興味のある分野を深められる職場であって、かつ、専門家が多い職場に入れた場合です。ただ、そのような職場は少数で、かつ、入社難易度も高い傾向があります。</p> <p>したがって、飛び抜けた能力を持った人を除き、多くの達成型 AA は、一般的な事務職として地道に活動するしかありません。ただ、事務職</p>

	<p>の中でも何からの資格の取得が見込める職場または専門性を磨きやすい職種を紹介するとハマりやすいでしょう。</p> <p>適性の高い職種としては、経理・財務、エンジニア、各種技術職です。</p>
効率型	<p>効率型 AA は、AA 型の中でも特に優秀な人材が多く、研究者や専門職として活躍する人が多い類型です。エンジニアやデザイナーなどにも多い類型で、何らかの専門分野に特化した人の方が成功確率も高いです。</p> <p>根の部分は AA 型であるため、社交性が低い人の方が多いのですが、その分よく学び、正確な仕事をしてくれるため、比較的信頼されやすい人材です。</p> <p>事務職としての適性もピカイチで、どんな事務作業でも早期に習得し、処理スピードもどんどん早くなっていきます。</p> <p>適性の高い職種としては、経理、財務、労務、法務、数値管理を伴う営業事務、その他事務全般であり、高い事務処理能力を有する人材です。</p> <p>また、この類型はサボるということをほとんどせず、地道に真面目に働いてくれることが多いため、長く働いてくれる人材として、会社から愛される存在となりやすいです。</p> <p>しかし、社交性が低いという弱点があり、面接を苦手とする人が多くいます。それゆえ、初対面ではなかなかその良さを認識してもらえないことが多いです。</p> <p>そのため、人材紹介エージェントまたはコンサルタントが上手にアピールしてあげる必要がある人材といえます。</p>
外見型	<p>外見型 AA は、THE エリートという人が多く、知性が高く、高学歴で、専門分野をすでに持っている、またはすでに進むべき道を決めているという人が多いです。そのため、専門職や士師業、コンサル職などで活躍している人が多い類型です。身だしなみもしっかりと整っているため、あまり悪いところがなく、面接でも好印象を持たれる人材が多いです。</p> <p>ただ、根の部分は AA 型であるため、他の AA 型と同様に正確性を重視する細かい性格をしています。そして、社交性も決して高くないため、営業職や対人折衝が多い職種ではあまり活躍しません。事務作業については最高レベルの適性を持っていますが、コミュニケーション能力は低めであると考えておきましょう。</p> <p>また、年齢が若い層については、学力もなく、専門分野もないのに、エリート気取りの人もあります。そういう人は面接でもすぐにわかるので、お見送り対象になりやすいでしょう。</p>

	<p>他にも、過度に他人からの評価を恐れてしまう人も一定数存在し、自分は完璧であるべきだという強迫観念を持っている人も存在します。そういう人は、完璧主義をこじらせてしまっていることが多く、業務の速度が極端に遅くなる傾向があります。なぜなら、失敗を恐れるがゆえに、すべての仕事でダブルチェック、トリプルチェックを行うため、時間がかかってしまうからです。</p> <p>そのため、若干厄介な人材も一部存在する類型であると認識しておくといいでしょう。</p>
情報型	<p>情報型 AA は、ヲタク気質がとて強い類型で、全類型の中で最もヲタクになりうる人材です。自分の好きな分野を見つけたら、その分野の知識をすべて得ようと調べ尽くします。新しい情報に触れ、仕入れること自体に快楽を覚える人が多く、年齢と共に情報量が積み上がっていきます。そのため、仕事として活かしやすい分野を好きになると、類まれな才能を発揮し、あっという間に上位グループに属するようになります。勉強の分野でも同様で、一つの科目にハマると、その科目だけ満点に近い点数を取り続けるということが多いです。</p> <p>よって、この類型が成功するかどうかは、ハマる分野によってほぼ決まります。一切お金にならない分野にハマってしまうとただのヲタクとして生きていくことになりますが、経済的利益が得られやすい分野（例えば会計や法律、投資やビジネス）を選ぶと富裕層の仲間入りを果たすことが多くなります。</p> <p>なお、この類型も AA 型である以上、社交性は低く、他人と関わること自体に魅力を感じない人が多いです。そのため、営業や接客業にはあまり向いておらず、事務職や専門職でないと本領を発揮しづらい類型といえます。そして、事務職の中でも、頭を使う事務職の方が魅力を感じやすい傾向があります。</p> <p>したがって、経理・財務、労務、法務、エンジニア、デザイナー、経営コンサルタント、技術職などの適性が高いです。</p>
平和型	<p>平和型 AA は、AA 型の中で最も友好的で、接しやすい類型です。控えめで大人しい性格の人が多いため、他人から嫌われるということはほとんどないでしょう。</p> <p>そして、事務処理能力が非常に高い類型であるため、様々な事務領域での活躍が期待できる人材です。高度な数値処理なども、経験を積むことでマスターしていく可能性が高く、経理や財務などで活躍するこ</p>

	<p>とが多いです。その他、プロジェクトの進捗管理やスケジュール管理なども得意で、丁寧な仕事をする人が多いタイプです。</p> <p>一方で、他人と積極的に関わろうとするタイプではないため、営業職や接客業ではあまり活躍できないことが多く、本人もストレスを感じやすいといえるでしょう。</p> <p>それ以外は特に問題がないタイプなので、事務方の人材としては非常に優秀な人材といえます。どのような事務系職種でも対応可能であるため、本人が興味のある分野であれば、何でもこなせる人材です。特に適性が高い職種は、経理・財務と労務です。</p>
--	---

### AI 型の注意点説明

項目	説明文
<p><b>類型の概要</b></p>	<p>AI 型は、正確かつ慎重な性格である A 型と、優柔不断で周りに気を使う I 型の特徴を併せ持つタイプです。このタイプは、控えめで物静かな人材が多く、性格もシャイなので、自分から積極的に他人に関わろうとする人は少数派です。</p> <p>ただ、断ることが苦手な人が多いため、他人から誘われればご飯にも行きますし、飲み会にも行きます。単に自分から話しかけたり、誘ったりすることが苦手なだけで、他人を嫌っているわけではありません。むしろ、人と接することは好きな人が多いです。</p> <p>そのため、最初はとっつきにくい印象を持たれることが多いのですが、長く付き合っていくと、その優しさや人間性の良さが見えてくるタイプといえます。</p> <p>また、このタイプは、比較的視野が広く、周りの人間をよく観察しているため、気が利く人が多い、仕事も丁寧です。</p> <p>ゴリゴリの営業職には向いていませんが、一般的な接客業や丁寧な対応が求められるコールセンターなどでは活躍する人材です。</p> <p>ただし、このタイプはコミュニケーション能力において、個人差が激しいタイプであるため、他人と上手く喋れない人も相当数存在します。</p> <p>したがって、コミュニケーション能力の高低については、面談等で見極める必要があります。</p> <p>本来の適性職種でいうと、経理・財務、事務職、エンジニア、デザイナー、その他技術職等に向いています。</p>

達成型	<p>達成型 AI は、AI 型の中では若干キツイコミュニケーションを取りやすい人材で、自分の信念や価値観を外部に表明してしまいやすい傾向を持っています。</p> <p>日頃は大人しく控えめな人が多いため、そのギャップもあって、突然キレル人のように見えることもしばしばあります。</p> <p>そのため、対人関係でトラブルとは言わないまでも、あまり関わりたくない人物とみなされる傾向があるので、少し注意が必要な類型です。</p> <p>また、この類型は正義感が強く、真面目な人が多いため、若干融通がきかないところがあり、緩すぎる会社では馴染めない可能性が高いです。公務員のようなルールがきっちり決まっている会社の方が馴染みやすいため、あまりベンチャー企業には向いていないかもしれません。</p> <p>そして、コミュニケーション能力がそこまで高くないため、営業職などでは結果が出せない傾向が強く、その割には言いたいことをハッキリ言うため、あまり高い評価を受けないことが多い類型です。</p> <p>一方で事務処理能力は高い人が多く、事務方としては非常に優秀な人材になる可能性があります。ただ、同時に小言も多いため、組織の中では若干嫌われやすいといえるでしょう。</p> <p>なお、一部の人を除いて、この類型は年齢と共に自分の性格の弱点(批判的なところ)を理解し、自分で修正する傾向があるため、経験値が上がるに連れて、少しずつ批判的な意見をマイルドに言い換える方法を修得していく傾向があります。そうなれば、ほぼ問題のない人材になります。</p> <p>適性職種は、事務系職種、経理財務法務などの専門職、エンジニア、その他製造業等の技術職などです。</p>
効率型	<p>効率型 AI は、AI 型の中で特に事務方に適した人材で、効率的に作業をこなしていくことに長けた類型です。そのため、あらゆる事務系職種に適性があり、優秀な人材も多く存在します。</p> <p>また、この類型の中では少数派ではありますが、コミュニケーション能力がある程度ある人も存在します。そのような人たちについては、接客業やテレマ、簡易な営業職等でも活躍することが多いです。</p> <p>真面目な性格をしているため、地道な作業にも対応できる人材が多く、工場勤務やエンジニアなどの職種にも適性が高いです。</p> <p>一方で、他の AI 型と同様に、そこまで社交性が高い類型ではないため、ノルマのキツイ営業職や、他人と接する機会が多い職種では活</p>

	<p>躍できないことが多く、ストレスを抱え込んでしまう傾向があります。</p> <p>その点以外には特に問題がない類型です。</p>
外見型	<p>外見型 AI は、他人からの否定的な評価や評判をかなり気にしやすい類型の一種で、失敗を過度に恐れる傾向が強い類型です。それゆえ、常に周りの視線や言動に気を配っており、自分に対する悪感情を敏感に察知する能力に優れています。</p> <p>それが度を越してしまうと、被害妄想も含まれるようになるため、この類型の一部の人については、何かと被害者意識を持ちやすいです。そのような人については対応に注意が必要で、思いもしないクレームをつけてきたりするので気をつける必要があります。</p> <p>そういった一部の人を除けば、概ね問題のない類型で、事務方の人材として活躍しうる人材といえます。</p> <p>営業職の適性はかなり低いですが、簡単な接客業や電話受付等は可能であるため、難易度が高くないテレマや接客業務であれば活躍する可能性があります。</p> <p>その他、製造業、技術系職種などにも適性がある類型です。</p>
情報型	<p>情報型 AI は、AI 型を代表する類型で、最も AI 型らしい特徴を有しています。この類型は、自分の好きな分野の知識を多く集め、情報が増えれば増えるほど安心する傾向があり、慎重な性格であるがゆえに、不安を抱えやすい性格をしています。その不安を解消するための手段として、知識を詰め込む傾向が強いです。</p> <p>この特徴は多くの場合、キャリアにプラスに作用します。特に知識や技術を必要とする職種の適性が高く、エンジニアや事務系専門職（経理・財務など）で活躍する人が多いです。</p> <p>また、数は少ないですが、一部の人は専門知識を必要とする営業職で活躍することがあります。例えば、IT 分野や法律・会計知識を必要とする分野の営業及びコンサルタントとして活躍できるかもしれません。</p> <p>この類型は、コミュニケーション能力自体は決して高くない類型ですが、間違ったことやテキトーなことを言わない傾向が強いため、正確な情報を適宜伝えてくれます。そのため、丁寧な仕事を好む組織であれば重宝されやすい類型です。もし、この類型を部下に持つことができれば、とても頼りになるサポーターになるでしょう。</p>



	一方で、ノリが良い方ではないため、体育会系の組織や論理性の乏しい勢い重視の組織では長く保たない傾向が強いです。
平和型	<p>平和型 AI は、人格的にはほとんど問題がなく、コミュニケーションも（AI 型にしては）比較的円滑な人が多い類型です。そのため、どの組織でも活躍しうる人材といえます。</p> <p>本来的な適性でいえば、事務職やエンジニアとしての適性が高く、営業等の適性は低い類型です。ただ、他人に気を使うことができる人が多いため、簡単な接客業や電話対応であれば問題なくこなすことができます。</p> <p>対人関係のトラブルを起こすことはほとんどないため、安心して様々な職種を提案してみると良いでしょう。</p> <p>なお、採用されやすい組織としては、公務員のようなキッチリとした組織の方が好まれやすいです。</p>

### AD 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>AD 型は、正確かつ慎重な性格である A 型の特徴と、徹底した合理主義で、即断即決即行動の D 型の特徴を併せ持った類型で、ビジネス的には非常に優秀な人材が多い類型です。</p> <p>鋭い観察眼と分析力を持った人材が多く、学習能力も高い人が多いため、主に専門職で活躍する人材が多い類型です。</p> <p>ただ、この類型にも弱点が 2 つあります。</p> <p>まず 1 つ目がコミュニケーション能力で、この類型は他人にあまり興味がなく、他人の気持ちや感情を慮る力が弱い傾向があります。そのため、歯に衣着せぬ物言いをしてしまいがちで、批判的なことばかり言う人が多いです。そのため、周りから嫌われやすい傾向があります。特に年齢が若い頃は議論において正論ばかり言うため、相手方は反論できないことが多いのですが、言い方が悪い（時々失礼な言い方をする）ため、相手方が感情的に納得いかない事例が多くなり、組織内で軋轢を生みやすいです。</p> <p>2 つ目が、無駄な努力をしない点です。この類型は、極めて合理性が高い人間であるため、自分にとってメリットがある活動以外をしたくないと強く感じる傾向があります。そのため、あまり意味がない社内</p>

	<p>ルールや無駄なルーチンワークを断る傾向が強いです。その結果、あまり言うことを聞かない従業員のように見えてしまい、上司から高い評価を受けないことがあります。能力主義の上司であれば、実力があることを前提にして、そのような態度も大目に見てもらえるのですが、今度は周りの同僚から「あいつは特別扱いされていてズルい」という印象をもたれやすくなります。</p> <p>事務処理能力や分析能力、学力等が高い類型であるがゆえに、様々なところで軋轢も生まれやすいですが、総じて優秀な人材が多いため、重宝されやすい類型の一つです。</p>
達成型	<p>達成型 AD は、最も AD 型らしい類型で、思っていることをズバズバ言葉にしてしまう傾向が強い類型です。議論や討論にめっぽう強く、高い分析力をフル活用して戦います。それゆえ、口論でなかなか負けることがなく、正論を振りかざして相手を叩きのめす傾向があります。性格的にも相手を言葉で追い詰めることに快感を感じる人が多いため、若干注意が必要な類型です。</p> <p>上記のような傾向があるため、この類型の特徴を特に強く有する人については、あまり他人からは好かれず、組織でも浮いてしまいやすいです。特に年齢が若い頃は、相手が上司であろうが役員であろうが言いたいことをハッキリ言う傾向があるため、対人関係で問題を起こしやすい類型といえます。</p> <p>しかし、能力自体は高い人が多いため、度を越さない限りは、ある程度は大目に見てもらえます。</p> <p>ただ、長期的に見ると、あまり高く評価されない傾向があるため、大手組織では埋もれてしまいがちな類型です。</p> <p>この類型が活躍しうるのは、エンジニアなどの専門職や規模の小さいベンチャー企業などです。その他にも、専門知識を必要とする IT 分野の営業職や不動産の営業職などでも活躍することがあります。</p> <p>なお、この類型で成功しやすいのは、自分の言いたいことをマイルドに伝える技術を習得した人です。若い頃は歯に衣着せぬ物言いをしがちですが、徐々に経験値が上がって（痛い目に遭って）、正論でも言っている良いことと悪いことがあるのだと学んだ人が、優秀になっていきます。</p> <p>適性職種としては、エンジニアとして活躍する人が多数です。その他にも、経理・財務、経営コンサルタント、不動産営業などでも活躍し</p>

	<p>得る人材です。元々持っている能力が非常に高い人が多いため、大抵の職種に対応できてしまいます。</p>
効率型	<p>効率型 AD は、AD 型の合理主義をより強固にした類型で、徹底的に効率を重視して思考・行動する傾向があります。自分の人生設計もかなり精密に立てようとする人が多く、様々な情報を調査し、分析して、合理的な道筋を探ります。そして、自分が納得できるまで考え抜く傾向があり、少しでも疑問や不安が残る選択肢は拒絶する傾向があります。</p> <p>そのため、この類型を動かしたい場合は、本人が納得できるだけの論拠（資料）を提示し、じっくり考えさせた方が良いです。自分にとって最もメリットの大きい選択肢を選びたいという欲求がとて強い類型であるため、他人から指図されることを嫌います。あくまでも自分で理解して、判断したいタイプなので、資料を大量に渡して放置しておいた方が決断までの時間が早くなりやすいです。</p> <p>なお、この類型は、基本的にはとても優秀な人材が多いため、事務系職種や専門職、エンジニアなどで活躍することが多い類型です。また、業務効率化も得意であるため、施工管理や工程管理なども得意分野です。コミュニケーションスキルがある程度ある人については、IT 分野の営業や不動産関係の営業でも活躍する可能性があります。</p>
外見型	<p>外見型 AD には様々な人がいますが、大きく分けると 2 つのタイプがいます。</p> <p>まず 1 つ目が、自分に自信を持っているタイプです。このタイプは、自分が他人より賢いということを自覚していて、かつ、努力もします。そのため、相対的に高い能力を保持していることが多く、その自覚もあるため、他人に対して少し横柄な態度を取ることがあります。議論や指摘、批判なども好きなタイプなので、他人のあら捜しや間違いを指摘することを好みます。その結果、組織の中で、若干嫌われやすい傾向を持っています。特に年齢が若い頃は、自分に対する過信が大きくなりやすいため、注意が必要です。</p> <p>もう一つのタイプは、他人からの悪い評価を恐れて失敗を避けようとするタイプです。このタイプは、危ない橋を渡らないために、先を読む能力が高くなっていく傾向があります。そのため、様々な情報を瞬時に分析し、自分にとって有益となるか有害となるかを早期に判断することができるようになっていきます。</p> <p>そして、自分にとって有害となるようなことはほとんどしません。リスクもあまり冒さないタイプなので、失敗をほとんどすることなく、無難に成功していきます。</p>

	<p>いずれのタイプであっても、能力自体は高い傾向があります。そのため、どこの組織でも一定の活躍が見込めます。</p> <p>適性が高い職種としては、エンジニアや専門知識を必要とする事務職などです。知識や技術を活用して活躍する人が多いため、そのような要素を持つ職種であれば、活躍できる可能性が高いです。</p> <p>一方で、あまり社交性が高い類型ではないため、営業職などでは思うように活躍できないことが多いです。</p>
情報型	<p>情報型 AD は、多くの場合、自分の専門分野を若いうちに確定させるため、その分野の知識が豊富です。自己の専門分野として選ばれることが多い分野は、プログラミング、英語、会計、法律、統計学（データサイエンス）、ゲーム、投資、経済学などです。</p> <p>この類型は、合理主義の性質がとて強いため、自分の損得概念及び価値判断基準をしっかりと持っている人が多いです。それは裏を返せば、自分の専門分野においては自分が正しいという確信を持っているということでもあります。そのため、他人のアドバイスをあまり聞かない頑固者が多く、あまり融通は利きません。自分が納得できない選択肢を選ぶことも滅多にないため、本人が納得するまでじっくり考え続けさせる必要があります。</p> <p>この類型に対して様々なアドバイスをしても、あまり聞かないことが多いため、情報や資料を大量に渡して、あとは自分で考えてもらうというスタンスの方が成功しやすいです。</p> <p>就職でも転職でも、自分で納得するまで調べ続ける傾向が強いため、意思決定は比較的遅めですが、一度決めてしまえば、迅速かつ的確に行動してくれるため、手間がかかりません。</p> <p>なお、他の AD 型系統と同様に社交性が高いタイプではないため、営業マンとしてはあまり活躍できない傾向がありますが、事務系職種や専門職としての適性は極めて高いため、その分野であればどの業種・職種でも活躍しうる人材です。本人が納得できさえすれば、勝手に学び、勝手に成長していきます。</p>
平和型	<p>平和型 AD は、AD 型の中では最もコミュニケーションを取りやすい類型で、AD 型の弱点である「批評家になりやすいという特徴」が若干弱まっている類型です。他人に対して失礼になるような発言をすることも少なく、他人の失敗や間違いにも、ある程度寛容です。</p>

	<p>一方で、AD 型の長所である専門性の高さや学習能力の高さ、分析力などは有しているため、とても優秀な人材が多い類型です。</p> <p>事務職や各種専門職、技術職として活躍する人が多く、中間管理職以上に出世している人も多く存在します。</p> <p>なお、本人が納得するまで動かないという点は、他の AD 型と同様です。そのため、じっくり考えさせる時間を必要とします。</p> <p>この類型は、一度覚悟を決めれば、最後までやり抜く傾向が強いため、本人の意思決定さえできていれば、どこの分野・業種でも、活躍し得る人材です。</p> <p>適性が特に強い職種は、エンジニア、経理・財務、労務、各種技術職、デザイナーなどです。</p>
--	---

### IP 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>IP 型は、繊細かつ優柔不断な I 型の要素と、社交的でポジティブな P 型の要素を併せ持っている類型です。この類型の多くは、程よく社交的で、程よく控えめで、程よく従順なので、どこの組織にも一定数存在します。</p> <p>この類型は、全類型の中で最も日本人らしい類型で、人数も多い類型です。そのため、飛び抜けた才能を持っている人などは少ない類型で、平均的で強い特徴がない（普通の）人材が多い類型です。</p> <p>この類型が活躍する領域は、主に事務系職種ですが、簡易的な営業職、テレマ、接客業などにも多く存在するため、ある意味職種や業種に関係なく、どこにでも存在し得る適応力の高い人材といえます。</p> <p>もっとも、根が真面目で気を遣いがちな性格であるため、精神的には脆い部分もあります。それゆえ、ストレスがかかりやすい職場に行くと、体調を崩しやすくなります。</p> <p>いずれにしても、人数が多い類型であるため、様々な人が存在する多様な類型です。</p> <p>共通している点としては、極力責任を取らない方向で思考する点と、積極的に動く人が少ない（ガツガツしている人が少ない）という点です。可もなく不可もなしという感じの人材が多いので、高い業績を出す人は稀です。</p>

達成型	<p>達成型 IP は、IP 型系統の中では最も注意が必要な類型です。</p> <p>そもそも IP 型は、基本的に優柔不断で、かつ、責任を極力取りたくないという傾向が強いため、自分に不利となりそうなことは極力しない傾向があります。</p> <p>しかし、この類型は、言いたいことをハッキリ言う達成型の特徴を併せ持っていてしまっているため、組み合わせが悪い状態です。その結果、「文句は言うけど責任は取らない人」になりやすく、組織の中で上手く機能しない可能性が出てきます。イメージでいうと、OL のアニメなどによく出てくるお局キャラのような人材です。他人の行動や仕事について、文句や指摘はしてくるけど、重要なところでは逃げるという傾向があるので、信頼を失いやすいです。</p> <p>また、自分のルール、自分の正義感、価値観が比較的しっかりとある人が多いため、その価値観に合わない人に対して若干攻撃性が高くなる傾向を有しています。そのため、時として、いじめの主犯格になってしまうこともあります。</p> <p>一方で、このタイプのすべての人が問題を抱えているわけではありません。</p> <p>この類型は、比較的言いたいことをハッキリと伝える傾向がある分、一見すると意思決定力がある優秀な人材に見えることが多く、頼りになりそうに見えることがよくあります。それゆえ、面接等ではウケが良く、通りやすい類型です。</p> <p>そして、若干プライドが高く、負けず嫌いな人が多いため、ある程度の努力はする類型です。その結果、平均より少し高い能力を持っている人も多いため、どこの組織でも一定の活躍が見込めます。</p> <p>適性としては、事務職の適性と、簡易的な営業職（接客業等）の適性が高いです。</p>
効率型	<p>効率型 IP は、とても優秀な事務員というタイプの人が多く、地道にコツコツと積み重ねる業務の適性が高い類型です。</p> <p>真面目で一定の社交性も持ち合わせているため、どこの組織でも活躍し得る類型といえます。</p> <p>この類型は、自分の担当する仕事を少しずつ分解し、効率的に組み替える能力を持っているため、徐々に処理スピードが早くなっていく傾向があります。そして、同じ職種に長く就いた場合は、その分野の専門家として活躍すること多い類型です。</p> <p>一方で、比較的器用な人材が多いがゆえに、ジョブローテーションで様々な部署に回されることも多い類型です。その場合は、様々な職種の能力を少しずつ持っている器用貧乏な人材になりやすいです。それでも真面目によく働く人が多いため、人材としては重宝さ</p>

	<p>れやすいでしょう。</p> <p>性格的にも他人と問題を起こすことも少ないため、特段欠点がない類型といえます。</p> <p>適性としては、事務職全般への適性が高く、他にも接客業、簡易的な営業職、テレマ、受付、秘書などの適性も高いです。</p>
外見型	<p>外見型 IP は、IP 型の特徴に加えて、他人の評価や視線を気にしやすいという外見型の特徴を有する類型です。そのため、基本的に他人からの悪い評価や批判を恐れる傾向を有しています。</p> <p>その傾向があるがゆえに、失敗をしないように細心の注意を払って行動する傾向があり、失敗をし辛い人材になっていきます。</p> <p>一方で、失敗を恐れるがゆえに、大きな挑戦をしない人が多く、転職等の意思決定が必要な場面では、長々と悩み続ける傾向がとても強いんです。そのため、よほど嫌なことでもない限り、転職をするという意思決定を先送りにしがちです。</p> <p>したがって、このタイプの担当になった場合は、意思決定に時間がかかりやすい性格であるという点を認識しておきましょう。</p> <p>また、困難な状況や難しい問題に対して逃げやすい傾向も有しているため、意思決定を急かされるとそのまま音信不通になることも多くあります。この類型が迅速に意思決定を行うケースは、自分にとって明らかに不利となる状況で、他に選択肢がない場合なので、そういう状況にならない限りはなかなか一步を踏み出せない類型です。</p> <p>なお、職種の適性としては、事務職の適性が高く、接客業や簡易的な営業職も活躍し得る人材です。ただ、優柔不断で責任から逃げる傾向があるため、管理職等には向いていません。</p>
情報型	<p>情報型 IP は、IP 型の中で最も真面目で、コツコツと努力することに長けた類型です。性格は控えめで大人しい人が多いため、なかなか表立った地位に就くことはないですが、仕事をしっかりとこなしてくれる優秀な人材が多い類型です。</p> <p>この類型に関しては特に注意するところもなく、どこの会社であっても地道に活躍してくれる可能性が高いです。</p> <p>適性としては事務職としての適性が極めて高く、経理や財務、法務などの専門職としても活躍する人も多い類型です。他にも、受付や秘書業務、接客業などもこなすことができます。優しい性格をしている人が多いため、保育士や看護師、教師や講師などにも多い類型です。</p>

平和型	<p>平和型 IP は、IP 型の中で最も人当たりがよく、誰からも嫌われない傾向が強い類型です。</p> <p>この類型は、他人と接する時に、常に気を使った言動をしているため、基本的には誰も傷つけることがない上に、よく気が利くタイプです。そのため、どこの組織でもすぐに馴染むことができます。</p> <p>対人関係でトラブルを起こすこともまずありません。</p> <p>一方で、飛び抜けた才能や技能があるタイプではないため、転職等では若干苦勞する傾向があります。個性が強い人といよりは、平均的な人という印象を持たれることが多いため、一般事務や接客業等であれば比較的採用されやすいかもしれません。その他にも、技術系職種などでも活躍は可能です。</p> <p>ただし、この類型は人当たりの良さに特化した類型であるため、喋る能力や高い社交性などは持ち合わせていません。そのため、そのような能力が求められる本格的な営業職等では、なかなか活躍し辛い類型です。</p>
-----	--

## IA 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>IA 型は、繊細かつ優柔不断な I 型の特徴と、正確性重視で慎重な A 型の特徴を併せ持った類型です。そのため、かなり慎重で臆病な性格をしています。</p> <p>この類型の系統は、全体的に意思決定や行動が苦手な傾向が強く、何を決めるにしても時間がかかりがちな類型です。</p> <p>また、行動し始めたとしても、所々で再度検討を始めて悩んでしまうため、誰かに引っ張ってもらった方が本領を発揮できます。</p> <p>一方で、かなり慎重な性格であるがゆえに、正確な仕事をしてくれる傾向があるため、事務系職種や技術系専門職としてはとても優秀な人材が多く、正確性・緻密性が要求される職種全般で活躍し得る類型です。</p> <p>比較的大人しい人が多いため、面接等ではあまり評価されない傾向がありますが、一緒に働いていくとその丁寧な仕事振りで信頼を集めていきます。</p> <p>主な適性としては、事務職、専門職、経理、財務、法務、技術職、エンジニアなどです。</p>



	<p>他人と積極的に関わろうとするタイプではないため、営業職や接客業には基本的には向いていません。</p>
達成型	<p>達成型 IA は、若干注意が必要な類型です。</p> <p>この類型は、行動力や社交性が低い傾向があるにもかかわらず、自分の言いたいことをハッキリ言う傾向があります。つまり、日頃はとても大人しく控え目なのに、ある時突然批判的なことを言い始めたり、他人の間違いを鋭く指摘したりするので、周りの人間を驚かせることがあります。</p> <p>また、日頃からあまり他人と社交的に話すタイプではないため、一見すると優しい人に見える結果、批判的なことを言ったときに印象がより悪くなりがちです。</p> <p>そのため、若干誤解されやすい類型といえるでしょう。</p> <p>ただ、年齢を重ねるごとに、少しずつ語彙力・表現力が上がっていき、他人に対して批判や指摘をするときに、言葉に気をつけるようになっていきます。その能力が身につけば、特段問題はない人材ばかりです。元々のポテンシャルは高い類型なので、事務系職種として重宝される可能性が高いでしょう。</p> <p>その他にも、専門的な知識を必要とする接客業、エンジニア、技術職などでも活躍する可能性があります。</p>
効率型	<p>効率型 IA は、とても優秀な人材が多い類型です。</p> <p>この類型は、持ち前の慎重さ、正確性を生かして、仕事を丁寧かつ正確にこなしてくれます。そして、仕事に慣れ始めると、より効率的に業務をこなすプロセスを自分で編み出していくため、事務処理速度がドンドン早くなる傾向があります。</p> <p>また、不安症であるがゆえに自分でよく調べる傾向があるため、失敗も少なく、安心して仕事を任せられる人が多い類型です。</p> <p>事務系職種の適性でいえば、かなり上位の類型といえるでしょう。</p> <p>その他にも、丁寧な接客が必要となるカスタマーサポート業務等にも適性があるため、電話受付等の業務もそつなくこなします。</p> <p>高い社交性を必要とする営業職等には向いていませんが、それ以外ではほとんど問題がない類型といえます。</p> <p>特に活躍が目立つ分野でいえば、経理・財務、法務、労務、エンジニア、デザイナー、企画職などです。</p> <p>この類型には、勉強などの分野で努力を継続できる人も多いので、ある程度難易度が高い職種でも、時間をかけてマスターしてくれる良い人材が多いです。責任感も比較的強い人が多いため、縁の下の力持ちとして活躍するでしょう。</p>

外見型	<p>外見型 IA は、一部の人については、若干注意が必要です。</p> <p>この類型は、もともとかなり慎重な性格をしていて、失敗を過度に恐れる傾向があります。それゆえ、他人の意見や批判、指摘や負の評価を気にしすぎる傾向を強く有する人が一部存在します。</p> <p>そういう人たちは、何かにつけて自分を悪く評価しがちで、他人から「嫌われているかもしれない」「悪く評価されているかもしれない」「無能だと思われるかもしれない」という不安感を持っています。</p> <p>そのため、社内で些細なトラブル等が発生すると、必要以上にそれを気にして萎縮してしまう傾向があるため、若干手を焼く類型といえます。</p> <p>普通の人なら気にしない程度のコミュニケーションの摩擦であっても、本人にとっては重大な失態となることがあります。そういう小さな摩擦、ストレスを溜め込んで、最終的に精神的に参ってしまう人も一定数存在するため、採用時には注意をしておくべき類型です。</p> <p>社内環境が良好で、社員同士の仲が良い組織であれば上手く行く可能性が高いので、そういう職場を紹介してあげると良いでしょう。</p> <p>一方で、体育会系の組織や罵声が飛び交っているような組織では、すぐにダメージを負ってしまう可能性が高いので避けた方が良いでしょう。</p> <p>適性としては、事務職への適性が高く、対人折衝が多い職種はあまり向いていません。</p>
情報型	<p>情報型 IA は、ほとんど問題がない類型で、事務系職種の適性ではトップクラスの類型です。</p> <p>自分でよく調べ、よく学ぶ傾向があるため、どのような事務系職種でも適応し得る優秀な人材が多く、数年でプロに成長していきます。</p> <p>人格的にも問題がない人が多いため、どこの組織でも活躍しうる人材です。</p> <p>事務系職種全般に対する適性が極めて高い他には、簡易的な接客業や専門知識を必要とするカスタマーサポートなどもこなせるでしょう。</p> <p>業務管理や工程管理なども得意分野です。</p> <p>一方で、営業職や対人折衝が多い職種には適していません。</p>
平和型	<p>平和型 IA も情報型 IA と同様、ほとんど問題がない類型です。</p> <p>誰とでも良好な関係を保ち、問題をほとんど起こさない類型であるため、どこの組織でも活躍し得る人材です。</p>

	<p>この類型も情報型と同様に、事務系職種の適性が高く、接客業等もこなすことができます。</p> <p>一方で、情報型と同様に、対人折衝が多い職種にはあまり適していません。</p> <p>情報型との大きな違いは、平和型の方が、より周りの人間の心情を重視した言動を取る点です。常に周りに気を遣いながら生活しているため、よく気が利きます。正確な仕事をしてくれる傾向が強いため、社長秘書や総務などの職種にとっても適性がある類型です。</p>
--	---

## II 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>II 型は、全体的に注意が必要な類型です。</p> <p>この類型は、優柔不断で責任を避ける傾向が強い I 型の特徴だけを強く有する類型で、自ら積極的に他人に関わったり、意思決定に参画したりしない人が多い類型です。そのため、組織の中でひっそりと存在感を消して生息するような、個性があまりない人が多い類型です。言い換えると、どのような組織にも馴染みやすく、染まりやすい類型です。</p> <p>この類型の系統は全体的に、周りの空気や雰囲気や常を常と読んでいくところがあり、場の流れに身を任せて生きていく傾向が強いです。そのため、長い物には巻かれる、従順に従うという特徴を持っていることが多いです。</p> <p>それゆえに、自分自身で意思決定をしないといけな場面や重い責任が発生する場面では、非常に悩みやすく、精神的に追い込まれる傾向が強いです。</p> <p>したがって、仕事やプライベートでのストレスにかなり弱い傾向があります。場合によっては心身の調子を崩してしまうことも多いため、対応に注意が必要な類型といえます。</p> <p>なお、この類型は全体的に事務系職種のみの適性があり、営業職や接客業の適性は低いです。</p>
達成型	<p>達成型 II は、II 型系統の中で最も注意が必要な類型です。</p> <p>この類型は、優柔不断で責任から逃れやすいという I 型の特徴を強く有し、それと同時に他者に対する攻撃性も有しています。そのため、</p>

	<p>自分の価値観や正義感に反することに対して敏感に反応し、不平や不満を外部に表す傾向が強いです。</p> <p>面と向かって本人に批判や非難を言う場合はまだマシな方で、多くのケースでは影で悪口をいう傾向があります。</p> <p>もちろん全員がそういう人であるわけではないですが、比較的多いため、組織の中では若干注意が必要です。</p> <p>そして、このタイプの最も厄介なところは、多くの場合、本人の能力不足が顕著であるという点です。本人の能力は不足しているのに、他人には文句を言うので、同僚等からあまり信頼されない傾向があり、組織の中でも浮いてしまうことがあります。それを本人が敏感に感じ取って、被害者意識を持ちやすいので、問題が複雑化していきやすいです。</p> <p>そのため、自社採用では避けた方が無難なタイプで、他社に紹介する場合でも少し注意が必要なタイプといえます。</p> <p>適性のある職種としては、主に事務系職種のみで、対人折衝や営業職などには適性が低いタイプです。</p>
効率型	<p>効率型 II は、比較的問題ないタイプです。</p> <p>このタイプは、控え目で大人しい性格をしている人が多く、あまり積極的に前に出るタイプではないですが、覚えた仕事は効率的にこなしてくれる人材です。</p> <p>そのため、事務員として重宝される可能性が高いです。</p> <p>人と明るく社会的に接することはあまり得意ではないため、営業職や接客業などには向いていませんが、簡易的な電話対応、マニュアルがしっかりあるカスタマー対応等であればこなせる可能性が高いです。</p> <p>その他このタイプで注意すべきこととしては、真面目な性格をしている人が多いため、若干無理をしやすい点です。知らず知らずのうちに仕事を抱え込んで、限界を迎えることがあるので、多忙すぎる職場では体を壊しやすい傾向があります。</p> <p>なお、このタイプの一部については、エンジニアとして活躍する人も存在します。</p>
外見型	<p>外見型 II は、非常に繊細な心を持ったタイプの一つで、対応に注意が必要なタイプといえます。</p> <p>このタイプは、周りの意見や言動、目線にすら目を配っている人が多く、様々なことを感じ取れるがゆえに、それを深読みしてしまう傾向があります。そして、自分に対する悪い評価を過度に恐れる傾向があるため、時として要らぬ心配をしてしまいがちです。</p>

	<p>それが自己の反省に繋がり、地道に努力する人もいますが、多くの場合は単に精神的に傷ついていくばかりです。一部の人については、些細な出来事でも被害者意識を強く持ってしまうケースがあり、精神的に深く傷ついて仕事が手につかなくなったりします。</p> <p>そのため、対応にはある程度注意が必要で、その人がどの程度この類型の特徴を有するのかについて、面談等で見極める必要があります。面接では明るく振る舞うこともあるかもしれませんが、比較的繊細な心を持っているという想定で言葉を選ぶと良いでしょう。</p> <p>適性としては事務系職種や他人とあまり関わらない技術職、工場勤務等の適性が高く、多くの人と関わらないといけない営業職等の適性は低いです。</p>
情報型	<p>情報型 II は、不安症な II 型の特徴を知識の量で補完しようとする類型で、不安なことがあると、自分で調べて、安心できるまで情報を集めるという傾向が強い類型です。そのため、真面目で慎重な性格をした人が多く、仕事も丁寧で正確です。</p> <p>この類型は、作業の途中で不安になることが多く、不安になると情報を集めるという過程が入ることが多いので、作業スピードは遅めですが、その分精度の高い仕事をしてくれる人が多いため、事務職としての適性は高いといえます。</p> <p>一方で、かなり繊細な性格をしている点は他の II 型と同様であるため、プレッシャーがかかりやすい営業職や、高度な責任が伴う専門職、管理職等には向いていません。</p> <p>また、特別な能力や才能を持った人も少ないため、人材配置の点から考えると、活用すべき部署や職種がわからなくなりやすい類型です。一般事務や人とあまり関わらない技術職等では活躍しうるので、そういった職種を中心に提案すると良いかも知れません。</p>
平和型	<p>平和型 II は、II 型の中では最も人当たりが良く、そつなく対話できる人が多い類型です。</p> <p>ただ、他の II 型と同様に、かなり繊細な性格をしているため、周りに対して過度に気を使う傾向があります。周りの空気をよく読んで行動するため、組織の中でほとんど我を出すことはなく、溶け込んでしまいます。その結果、あまり目立った活躍をしない人が多く、可もなく不可もなしという平均的な業績の人が多いです。</p>

	<p>なお、適性としては事務系に加えて、簡易的な接客業であれば十分にこなせるでしょう。ただし、プレッシャーがかかりやすい営業職等では長く保たないことが多いため、注意が必要です。</p>
--	--

## ID 型の注意点説明

項目	説明文
<b>類型の概要</b>	<p>ID 型は、優柔不断な I 型の特徴と、即断即決即行動の D 型の特徴を同時に有してしまっている特殊な類型です。</p> <p>本来、優柔不断と即断即決は正反対なので、同居することはありません。しかし、この類型は、その両方の特徴を有してしまっているため、精神的な振れ幅が非常に大きく、不安定な性格をしています。</p> <p>例えば、自分でその場で決断したことであっても、数秒後に再度悩み始めて意見を変えたりします。</p> <p>このような朝令暮改の行動がかなり多い類型であるがゆえに、周りにはそれに振り回されることがあります。そのため、管理職にはあまり向いていません。</p> <p>また、他人と多く関われば関わるほど、悩むポイントが増えてしまう類型であるため、意見がコロコロと変わる機会も増えてしまいます。それにより、本人も周りも疲れてしまいやすくなるため、一人で黙々とこなせる事務作業や技術職、専門職等の方が適性も高いです。</p> <p>いずれにしても、特殊な性格をしているため、少し変わった人が多い類型です。長く付き合っていけば、各人の悩むポイント等がわかってくるので支障はないのですが、最初は周りを戸惑わせることが多くなってしまうかもしれません。</p>
<b>達成型</b>	<p>達成型 ID は、ID 型の中では若干注意が必要な類型といえます。</p> <p>この類型は、朝令暮改が多いという ID 型の特徴に加えて、他人に対して対抗心を出しやすいという特徴を併せ持っています。それゆえ、他人と競い合ったり、議論したりすること自体を好む傾向が強いです。本人の能力が高い場合はそれでも全く問題ないのですが、ID 型で高い実績を出せる人は少数派で、多くの場合は優柔不断な性格が災いして、あまり良い結果を出すことができません。その結果、不平不満ばかりいう人という印象を持たれやすいです。</p>

	<p>そうなってくると、社会人としてもなかなか評価されないことになりかねないため、若干の注意が必要な類型です。面談時に不平不満が多い、ネガティブな発言が多いなどの特徴が見受けられた場合は、転職先でもあまり良い評価を受けない可能性が高いので、紹介先をよく検討しましょう。</p> <p>このタイプの適性職種については、原則として事務系職種と技術系職種ですが、ある程度の積極性も有しているため、一部の人は営業職やマーケティング職でも活躍することがあります。</p>
効率型	<p>効率型 ID は、比較的問題ない類型です。</p> <p>優柔不断と即断即決がコロコロと入れ替わって表出する点は他の ID 型系統と同様ですが、この類型の場合は、その変化の中に一定の合理性があり、筋の通った理由があります。</p> <p>そのため、ある程度納得のできる朝令暮改であることが多いため、周りもそこまで気にしないでしょう。</p> <p>また、日頃は効率的に業務をこなしてくれる人が多いため、ビジネス的にも特に問題がなく、様々な職種で活躍している人が存在します。</p> <p>事務系職種は全体的に適性があり、その他にも接客業、技術職、簡易的な営業職などでも一定の活躍が見込めます。</p> <p>この類型は、自分のルール（独自ルール）や自分の中の合理性がしっかりとあるタイプなので、それさえ理解・許容できれば、比較的付き合いやすい類型です。</p> <p>ただし、好業績を上げられる人は稀です。</p>
外見型	<p>外見型 ID は少し注意が必要な類型の一つです。</p> <p>この類型にも様々な人がいますが、他人から良い評価を得たい、悪い評価を得たくないという欲求が総じて強い人が多いため、自分をよく見せること、又は悪い評価を受けないようにすることに日々注意を払って生きている傾向が強いです。その結果、過度に消極的になってしまったり、他人の言動に過度に不安を覚えてしまったり、自分の失敗をなんとかして誤魔化そうとしてしまったりします。場合によって、自分をよく見せるために見栄を張り続けてしまう人もいます。</p> <p>もともと朝令暮改の傾向が強い類型であるため、上記の特徴と合わさって、周りからあまり信頼されない人材になってしまいうことが多いです。言うことがコロコロと変わって、自分の間違いも認めない（誤魔化そうとする）という状態のままでは、信頼関係も構築し辛いです。</p>

	<p>年齢と経験を重ねて、人間的に成長してくると、素直に間違いを認めた方が得も多いということがわかってきますが、若いうちは苦勞する人が多い類型です。</p> <p>また、この類型は自分の脳内でも見解がコロコロと変わってしまう傾向が強いため、なかなか一つのことに集中して能力を向上させることがし辛い類型です。それゆえ、特定の分野で優れた能力を身に着けたり、営業等で良い業績を出し続けるという傾向は強くありません。残念ながら、平均かそれ以下の範囲に収まってしまうことが多いです。適性としては事務系職種の適性が高く、営業職等の適性は低い傾向があります。</p>
情報型	<p>情報型 ID は、不安症な I 型の特徴が強いがゆえに、自分の業務に関することをいろいろと調べて不安を解消しようとする類型です。その傾向が強ければ強いほど、調べる回数が増えるため、徐々に賢くなっていきます。一つの分野に特化することができれば、何らかの専門分野を持つに至る人も多く存在するため、30 代以降で優秀な人材になる人が増える傾向があります。</p> <p>もっとも、他の ID 型系統と同様、一度決めたことであっても、後で調べて間違いに気づき、意見を変えてしまうという傾向は有するため、客観的には若干オッチョコチョイな人が多いです。</p> <p>なお、基本的には真面目で誠実な人が多いため、そこまで大きな問題はない類型です。地道にコツコツと仕事を覚えていくことが多いため、時間さえかければ活躍できる人材です。</p> <p>適性としては事務系職種、技術系職種、エンジニアなどの職種に適しています。</p> <p>一方で、あまり社交的な類型ではないため、営業や接客業等は苦手です。</p>
平和型	<p>平和型 ID は、ID 型の中で最も問題がない類型です。</p> <p>朝令暮改の傾向はどうしても有してしまいましたが、人当たりが良く、他人に対する言動が柔和なので、周りもあまり気にしません。</p> <p>組織内で問題を起こすこともほとんどなく、少し早とちりな人という認識を持たれる程度です。</p> <p>適性としては事務系職種、技術系職種、簡易的な接客業、簡易的な営業職などで活躍し得る人材です。</p>



	一方で、管理職にはあまり向いていません。スタッフとしては十分に機能する人材ですが、管理職となると必要な意思決定に参画することになるため、朝令暮改の特徴が仇となりやすいです。比較的ミスが多い類型に属するため、極力スタッフレベルで平和に仕事をこなしていく方が適しています。
--	--

## DI 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>DI 型も ID 型と同様に、即断即決の D 型の特徴と優柔不断という I 型の特徴を併せ持っている特殊な類型で、正反対の特徴がコロコロと入れ替わるように表に出てきます。そのため、この類型も朝令暮改の傾向が強く、一度決めたことでも、後で悩んで意思決定を覆すことがよくあります。</p> <p>ID 型との違いは、I 型（優柔不断）の特徴よりも、D 型（即断即決）の特徴の方が強いという点です。</p> <p>DI 型の場合、日頃は D 型の特徴が強く出ているため、即断即決で行動しますし、意思決定もかなり迅速です。また、せっかちな性格をしているため、テキパキと行動することを好みます。</p> <p>しかし、一旦落ち着くと I 型の特徴がジワジワと出てきて、過去の言動について一つ一つ反省会を開催します。そして、自分の間違いに気づくと、それを訂正するためにあらゆる手を尽くすという傾向が強いのです。その結果、朝令暮改が増えます。</p> <p>ただ、ID 型よりはビジネスに適した類型で、様々な職種で活躍する可能性を持っています。</p> <p>適性としては、事務系職種だけでなく、営業職、技術職、コンサル職などでも活躍し得る人材が多いです。</p>
達成型	<p>達成型 DI は、若干注意が必要な類型ではありますが、能力が高い人も多い類型です。</p> <p>この類型は、朝令暮改の特徴を有してはいますが、基本的に負けず嫌いなので、謝ることもしない傾向が強いのです。むしろ、臨機応変に対応しているから朝令暮改は当たり前くらいの感覚でいる人の方が多いかもしれません。</p>

	<p>この類型の人たちの多くは、日頃からスピードを意識して活動している傾向が強いため、何事もその場その場で瞬時に判断して動きたがります。</p> <p>しかし、その判断は浅い検討の上で成り立っている物が多いので、後々になっていろいろと悩んで意見を変えたり覆したりします。それが許容される組織であれば問題ないのですが、周りが寛容でない場合はあまり評価されない人材となりやすいです。</p> <p>また、この類型は、言いたいことをハッキリと言う傾向も強いため、イエス・ノーを正直に相手に伝えます。オブラートに包むということが苦手な人が多いため、たまに人間関係で軋轢を生むこともあります。</p> <p>ただ、このような弱点がありつつも、行動量が多い傾向が強いため、意外となんとかなってしまうことが多く、実績もある程度出す傾向があります。</p> <p>様々な職種で活躍し得る人材ですが、若干変わっていても許される職種、例えばデザイナー、エンジニア、マーケター、個人事業主などとして活躍している人が多いです。</p> <p>なお、同じ職場にずっと留まるタイプではないので、遅かれ早かれ転職をする傾向があります。</p>
効率型	<p>効率型 DI は、DI 型系統の中では比較的朝令暮改が少ない類型です。</p> <p>この類型は、自分の中の合理性基準を持っているため、原則としてその基準に則って判断していきます。意思決定も迅速で、行動も早い人が多いため、ビジネスでも活躍している人は多い類型です。</p> <p>重要な意思決定や責任が重い意思決定では、不安症なところが出てきて朝令暮改になりやすい傾向がありますが、日常業務は支障なくこなしていくことが多いです。</p> <p>対人関係で問題を起こすことも少ない類型であるため、特段問題のない類型です。</p> <p>適性職種は様々で、ある程度のことは器用にこなしてくれる傾向があります。どのような職種でも適応できると思われるため、紹介先で困ることはあまりないでしょう。</p> <p>活躍しやすい会社としては、本人が興味を持っている領域の事業を行っている会社です。この類型は、自分の好き嫌いでパフォーマンスが大きく異なるため、できれば好きなことに関連する事業に従事させたほうが本領を発揮しやすいです。</p> <p>なお、この類型の人材が好きになりやすい分野としては、コンサル職、マーケティング、エンジニアなどの専門性が高い領域が人気です。</p>

外見型	<p>外見型 DI は、一定数注意が必要な人が存在します。</p> <p>この類型は、基本的には仕事も迅速で、そこまで能力が低いわけではないのですが、自分の能力を他者に認めてもらいたい、評価されたいという欲求が比較的強い傾向があります。</p> <p>そのため、自分の手柄や功績を必要以上にアピールしてしまったり、自慢げに周りに話してしまったりしがちです。その結果、ナルシストに見えてしまうことがよくあり、周りから悪い評価を受けることがあります。</p> <p>しかも、この類型はかなり打たれ弱いところがあるため、その悪評を認識してしまうと、必要以上に落ち込んで、場合によってはトラウマを抱えてしまうことがあります。</p> <p>この点については、若干対応に注意が必要といえます。</p> <p>人前で目立つことや評価されることが好きな人が多いので、マーケターや営業職などでも活躍している人が多い類型ですが、小さな失敗で大きく傷ついてしまうことも多いため、長く活躍し続けるタイプではありません。</p> <p>特に批判的な組織（気が強い人が多い組織）では、心が傷つけられやすいため、できる限り温和な雰囲気のある会社に入ったほうが良いでしょう。</p>
情報型	<p>情報型 DI は、日頃は即断即決傾向が強いのですが、一度迷い始めると、自分が納得できるまで調査し続ける傾向がある類型です。ふとした瞬間に不安になりやすい性格をしているため、その不安を解消する手段として情報を集めます。この傾向が特に強い人については、年齢を重ねるごとに知識レベルが上がっていくため、徐々に優秀になっていく傾向があります。</p> <p>その結果、30 代以降では専門知識を必要とする職種で活躍する人が多く存在する類型です。</p> <p>なお、基本的には器用な類型であるため、様々な職種で活躍する可能性があります。例えば、各種事務系職種、技術職、エンジニア、IT 分野の営業職、経理財務などの専門職としての適性が高いです。</p>
平和型	<p>平和型 DI は、DI 型の中で最も問題が少ない類型です。</p> <p>本来、DI 型はあまり人付き合いが得意な方ではないのですが、この類型はその弱点が補強されていて、他人に対してもある程度配慮した言動をとることができる類型です。</p>

	<p>そのため、あまり対人関係で問題を起こすこともなく、そつなく業務をこなしてくれます。</p> <p>元々の事務処理能力が比較的高いため、事務系職種全般の適性が高い類型です。</p> <p>その他にも、一般的な接客業や簡易的な営業職、技術職であれば十分にこなすことができる類型です。</p>
--	--

### DP 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>DP 型は、即断即決の D 型の特徴と、明るく前向きな P 型の特徴を併せ持っている最強の類型の一つです。</p> <p>この類型は、経営者、投資家、各種学会、その他様々な組織のリーダーや管理職、士師業など、社会的地位の高い職種で活躍している人が多く、人の上に立つ器を持った人間が多い類型です。子供の頃から頭角を現している人も多く、大抵は学生時代から何らかのリーダー職を経験しています。</p> <p>そのため、どこの会社であっても一定の業績・成果を出す傾向があります。</p> <p>しかし、その成果の程度については、本人の趣味・趣向によって大きく差が出てしまいます。</p> <p>この類型は、自分の興味のあることに対しては全力で取り組み、結果も出しますが、興味がないこと、メリットが薄いことについては手を抜く傾向が強いため、ある程度の努力でしか活動しません。ただ、ある程度の努力であっても人並み以上の結果を出すことが多いので恵まれた才能を持った類型といえます。</p> <p>また、この類型に属する人たちの多くは、難解な物事を分解し、単純化することに長けているため、遅かれ早かれ仕事で結果を出し、役職を上げていくことが多いです。</p> <p>そして、人から教わることや他人の下に就くことが苦手な人が多いため、自分で学び、自分で勝手に成長していきます。むしろ、放置されている方が成長も早いかもしれません。</p> <p>したがって、裁量の広い職場や職種に送り込むと本領を発揮しやすいです。</p> <p>この類型の弱点としては、調子に乗りやすい点が挙げられます。</p>

	<p>持って生まれた才能に恵まれている人が多いため、ちょっとやればすぐにできてしまう傾向があり、その結果調子に乗りやすくなってしまう。特に若い頃は「自分が一番」と考えてしまいがちなので、注意が必要です。自信過剰になりやすい性格をしているため、誰かが手綱を引いてあげないと、よく暴走します。</p> <p>適性職種としては、どんな職種でもある程度対応できる類型ではありますが、活躍している人が多いのは、個人事業主、営業職、コンサル職、管理職、フルコミッション型の営業職、士師業などです。</p>
達成型	<p>達成型 DP は、DP 系統の中で最も問題児が多く、かつ、最も業績を出す類型です。そのため、諸刃の剣タイプといえそうです。</p> <p>この類型は非常に高いプライドを持っていて、他人に指図されることを嫌う傾向が強いです。自分の判断で自由に生きていくことを好むため、組織に属する事自体にあまり向いていません。それゆえ、最終的には独立または個人事業主として活動する人が多い類型です。</p> <p>また、この類型は非常に負けず嫌いで、自分が一番優秀であると信じ込んでいる人も多いです。それゆえに努力家でもあります。何らかの順位が出る業務で、自分の興味のある分野であれば、一番になるために最善を尽くします。ただし、この類型は、時として、勝つためならば違法な手段であっても取ることがあるため、その点には注意が必要です。</p> <p>さらに、言動も基本的に荒々しい人が多く、攻撃的です。そのため、頻繁に対人関係のトラブルを起こします。部下や同僚に対しても、思っていることをそのまま言葉に出して言うことが多いため、軋轢を生みやすいです。</p> <p>このように、問題も多い類型ですが、そのなりふり構わないスタイルで他の人間を凌駕する業績を出すことも多いので、評価が非常に難しい類型といえます。個性的な人間を許容してくれる職場や実力主義で数字さえ出していればどんな人間でもかまわないという組織の方が活躍できるかもしれません。</p> <p>この類型の人材が活躍しているケースが多いのは、主に営業職とコンサル職です。営業職やコンサル職のトップ層を集めていくと、この類型が多く存在するので、全類型の中で最も向いているかもしれません。ただし、問題を起こすことも多いので、それを天秤にかけて考える必要があります。</p>

<b>効率型</b>	<p>効率型 DP は、サボり上手な天才型です。</p> <p>この類型は、自分が楽をするためであれば、どんな苦勞でも厭わず実行します。先々の楽を得るための今の苦勞なら、苦勞だとも思わないでしょう。それくらい合理主義に徹しています。</p> <p>そのため、仕事が非常に早い人が多く、無駄がありません。自分の処理速度が最大になるように業務プロセスを組むため、この類型が管理職になっている部署は業務効率が高くなる傾向があります。</p> <p>このような特殊な能力を持っている類型であるため、ビジネスでは高く評価される傾向があり、遅かれ早かれ管理職や経営者になっていく類型です。</p> <p>ただ、極端な合理主義傾向を持った人も一部存在し、そういう人たちについては、普通の人とは違う価値観・思考を持っています。独特な考え方をする人が多いので、だいぶ変わり者に見えると思いますし、実際変わっています。その結果、組織の中で浮きやすい傾向があります。いわゆる天才肌のような変わった人材が多いです。そのため、変わり者を好む組織では重宝されます。</p> <p>また、元々の能力は高いので、どのような職でも一定の活躍が見込めます。そして、この類型の人材をより効率的に活用するのであれば、管理職に任命するのが最も効果的でしょう。大きな裁量を与えて、業務改善を実行させれば、全類型の中でもトップクラスの実力を発揮します。</p> <p>なお、年齢が若い頃は、営業職、エンジニア、各種専門職等で活躍する人が多いです。</p>
<b>外見型</b>	<p>外見型 DP は、実力次第で見え方が大きく変わる類型です。</p> <p>この類型は基本的に自意識過剰気味な人が多く、自分の能力や才能、見た目などに対して過度な自信を持っていることが多い類型です。ポジティブなことはとても良いことなのですが、それが過度になり過ぎるとナルシスト傾向が強くなってしまいがちです。</p> <p>仮に、実力が十分に備わっている人であれば、ある程度ナルシストであっても許容される傾向があります。逆に、実力不足の場合は問題です。能力はないのに自信と自惚れだけはあるという状態なので、どこの組織でもなかなか評価されない傾向があります。</p> <p>実力はその人の過去の経歴や実績で大体わかるため、どちらか見極めてから対応を決めると良いでしょう。</p> <p>実力が十分にあるのであれば、フルコミッション型の営業職や難易度の高い専門職などでも通用することが多いです。</p> <p>一方で、実力不足であれば、どこの会社でもあまり上手く行かない傾向があるので、できる限り簡易な業務で結果を出しやすい会社を紹介した方が良いでしょう。</p>

	<p>このタイプの適性職種としては、営業職の適性が全般的に高いです。その他、他人の前で公演やプレゼン等を行う機会が多いコンサル職などにも向いています。</p>
情報型	<p>情報型 DP は、DP 型の中でも特に優秀な人材が多いタイプで、ほとんど問題ないタイプです。</p> <p>このタイプは、決断力、判断力、社交性、調査能力等、様々な点で優れた能力を持っているため、放置していても勝手に成長していくタイプです。そのため、若干難易度の高い業務を与え続けていれば、自分で調べて自分で学習して成長していく傾向が強いです。したがって、会社にとってはかなりコスパの良い人材といえます。</p> <p>また、高度な専門知識を必要とする職種の上級管理職に多いタイプであるため、真面目に勉強を続けていれば、高確率で成功するタイプでもあります。</p> <p>適性職種はかなり幅広く、何でもできてしまう傾向がありますが、特に向いているのは、コンサル職と営業職です。専門知識が必要となる分野だと尚適性が高いです。</p>
平和型	<p>平和型 DP も全くと言っていいほど問題がないタイプで、特に注意すべき点もありません。</p> <p>このタイプは、対人関係を良好に保つスキルに恵まれており、DP 型の弱点である「調子に乗りやすさ」が軽減されているタイプです。そのため、組織内で問題を起こすことも少なく、とても良好な人間関係を構築する傾向があります。</p> <p>元々の能力がかなり高いタイプなので、仕事もできる人が多く、覚えも早いです。それゆえ、どのような職種であっても適応できてしまう可能性が高いタイプです。</p> <p>ただ、人間関係が劣悪な環境化ではストレスが溜まってしまいやすいタイプであるため、極力雰囲気の良い職場に入ったほうが長く活躍できるでしょう。</p> <p>適性職種としては、接客業、営業職、管理職、コンサル職、講師などに向いています。</p>

## DA 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>DA 型は、全類型の中で最も優秀な人材が多い類型であるため、基本的には問題を起こすことはありません。この類型に属する人の多くは、自学自習ができる人たちで、自分で勝手に成長していくため、育成の手間がほとんどかからず、放置していても成長してくれる人材が多いです。</p> <p>ただ、優秀であるがゆえに、尊敬できる上司や先輩を見つけることに苦労することが多い類型でもあります。何でも一人で学んで解決できてしまうので、周りに頼らずとも生きて行けてしまうことが多いのです。それゆえ、友人も少なく、一人で活動する人が多い類型です。</p> <p>この類型に属する多くの人は、最終的には自分ひとりで生きていく傾向が強いため、独立したり、士師業になったり、何らかの専門スキルを活用して働くことになります。</p> <p>また、自分にとってより有益な環境を求める傾向も強いため、周りに優秀な人材がいない組織からは早期に離脱（離職）しようとするでしょう。そのため、よほど良い環境でもない限り、あまり長く同じ場所に留まることはありません。</p> <p>適性の高い職種は、エンジニア、経理財務、法務、その他専門知識を必要とする職種全般です。クールな人が多いため、営業職にはあまり向いていませんが、経営コンサルタント職種では活躍している人が多いです。</p> <p>なお、年齢が若い人でこの類型に属する人は超少数派なので、出会えたらラッキーという類型です。</p>
達成型	<p>達成型 DA は、優秀な能力を持っていることに加えて、とても正義感が強く、負けず嫌いな類型です。そのため、時々他人に対して攻撃的になってしまうことがあります。</p> <p>自分の価値観に反することや間違っていると思うことに対しては、ハッキリと正論で論破しに行くことが多いですし、自分が正しいという確信があるがゆえにほとんど譲らないので、怖い人又は面倒な人だと思われやすいです。実際、かなり冷酷かつ堅い性格をしていることが多く、あまり融通は効きません。</p> <p>基本的に能力が高い人が多いので、それでも許されることが多いのですが、まだ年齢が若く能力不足である間は煙たがられる傾向があります。</p>



	<p>ただし、年齢を重ねていけば能力はついていく類型ですし、ある程度丸くもなるので、問題は少なくなっていくます。</p> <p>なお、プライドは非常に高い人が多いので、対応には若干注意が必要な場合があります。この類型に属する人の多くは、内心では「自分が一番すごい」と思っていることが多いので、接し方には若干注意を要します。</p> <p>適性の高い職種は、コンサル職、士師業、エンジニア、各種専門職などの一人でも活動できる職種です。対人関係を良好に保つスキルはあまりないので、営業職や接客業にはあまり向いていません。組織内の仲が良い会社では、若干浮きやすい傾向があります。</p>
効率型	<p>効率型 DA は、最も DA 型らしい類型で、徹底した合理主義者です。</p> <p>何をもって「合理的」とするかは個人差があります。自分に利益があることを合理的とする人もいれば、自分の所属する組織に利益となることを合理的とする人もいます。その価値観次第で社会的な評価が大きく変わる類型ともいえます。</p> <p>ただ、いずれにしてもかなり優秀な類型で、できないことの方が少ないかも知れません。この類型が本気でやると決めたことは、大抵できてしまいます。勉強でも、仕事でも、自分が興味を持った分野については類稀な才能を発揮して、マスターしていきます。</p> <p>それゆえ、この類型に対する仕事の紹介は、本人が興味を持てるかどうかですべて決まります。他人からの働きかけはほとんど無意味で、自分で調べて自分で判断したがる人が多いので、情報を全部渡して、あとは本人の意思決定を待つ方が得策でしょう。</p> <p>気に入しやすい職種としては、先々のキャリアが形成しやすい職種（専門性が磨ける職種）、平均的な所得が高い職種、他人とあまり関わらないでいい職種などが該当します。</p> <p>そもそも他人と関わることに合理性を見出せない人が多いため、一人で黙々と作業をこなす仕事の方を好む傾向が強いです。そのため、エンジニアや技術職になる人が非常に多いです。活躍している人が多い分野としては、IT 系（プログラマー、エンジニア等）と工学系（土木工学や建築系）、あとは研究者や経理財務などの専門職です。</p>
外見型	<p>外見型 DA は、DA 型の中では若干問題がある類型です。</p> <p>この類型は、自分の優秀性、能力の高さ、頭の回転の早さなどをよく理解していて、自覚もしています。そして、大抵の人間には勝てると思っていますし、実際に勝ててしまうでしょう。</p> <p>だからこそ、内心で人を見下している事が多く、一部の人のについてはそれを態度で表してしまうことがあります。そのため、常に上から目</p>

	<p>線で他人と会話してしまったり、他人を小馬鹿にしたような指摘の仕方をしてしまったりして、組織内で嫌われることがあります。</p> <p>元々、DA 型は全体として指摘が鋭く、正論で相手を打ちのめしてしまう傾向が強いため、その傾向に拍車がかかってしまっている人が一部存在します。</p> <p>その場合は、どこの組織に行ってもあまり上手くいかないため、注意が必要です。なお、能力自体は比較的高い人が多いので、評価が難しい人材です。</p> <p>また、一部のこの類型は、実際に飛び抜けた能力を持っていて、周りからすると「腹が立つけどすごい人」という認識を持たれることもあります。</p> <p>適性職種としては、エンジニア、経営コンサルタント、経営企画、経理財務、金融系営業マン、不動産営業、IT コンサルタントなど、専門知識が必要となる職種での活躍が目立ちます。</p>
情報型	<p>情報型 DA は、DA 型の中で最も知識重視の類型で、学者や研修者などに多い類型です。</p> <p>この類型は、とにかく頭が良く、様々な領域で知識専門職として活躍しています。元々の知能が高いことに加え、人並み以上の努力をする人が多いため、より優れた人材になっていく傾向があります。ただし、それに見合うだけのプライドの高さを持っているため、部下としては若干扱い辛いところがあるかもしれません。</p> <p>そしてこの類型は、多くの場合数年以内に自分の上司を知識量的に超えてしまうため、その後のキャリアで悩みがちです。将来何をやっても一定の成功が望める類型ではありますが、選択肢が一般的な人材より多いがゆえに、悩みも多い類型です。</p> <p>ただし、この類型はすべて自分で考えて自分で決めていくため、干渉は不要です。情報（選択肢）を与えて放置しておくだけで、自分で意思決定をして活動し続けます。</p> <p>適性の高い職種は多く存在しますが、原則として知識が重要となる職種の方が早くに成功します。そのため、エンジニア、プログラマー、各種技術職、経理財務、法務、経営コンサルタントなどの知的専門職の方が相性も良いでしょう。</p>

平和型	<p>平和型 DA は、DA 型の鋭さを丸くしたような類型で、DA 型の中で最も人当たりが良い類型です。そのため、あらゆる組織で優秀な結果を出してくれる可能性があります。</p> <p>DA 型は元々管理職に向いている類型ですが、平和型 DA ならば能力の高さに加えて対人関係でもあまりトラブルを起こさないため、より管理職としての適性が高い類型です。</p> <p>元々の能力が高い傾向が強いため、各種専門職として活躍している人が多い類型ですが、年齢を重ねていくとその多くが管理職に任命されます。そのため、専門職部門の管理職として活躍している人が多い類型です。</p> <p>適性職種としては、エンジニア、経理財務、経営企画、経営戦略、不動産コンサルティング、金融専門職、法務、その他専門知識を活用して働く職種全般に適性があります。</p> <p>体育会系の営業職以外であれば、どのような職種でも活躍し得る人材なので、転職で困ることは少ない類型です。</p>
-----	---

## DD 型の注意点説明

項目	説明文
類型の概要	<p>DD 型は、全類型の中で最もせっかちな類型で、じっとしていることがとても苦手な人が多いです。そのため、常に先のことを考えて行動し続ける人が多く、周りから見ると、いつもなにかに焦っている感じに見えます。本人としてそれが日常で、普通のことなのですが、自分が変わっているということに気づいていないことも多いです。</p> <p>この類型は、自分で決めたことを最短最速で実現したいという欲求が非常に強いため、(特に日本では) 浮いてしまう事が多い類型です。普通の人より遥かに早い意思決定スピードと行動量を持っているため、日本人らしくない人が多いのです。</p> <p>結果的に、組織の中ではなかなか馴染めず、年齢を重ねていくと自営業者や経営者などになる人が多くなっていきます。</p> <p>上記のとおり、かなり特殊な類型であるため、全類型の中でも少数派に属する珍しい類型です。年齢が若い人でこの類型の人は特に珍しいです。</p>

	<p>向いている職業は、基本的には自営業です。その他の職種でいうと、営業職、企画職、スピードが求められる職業全般、各種専門職、コンサル職などで活躍する人が多いです。</p>
達成型	<p>達成型 DD は DD 型の中でもトップのせっかち類型で、全類型の中で最もソワソワしています。常に思考または行動をしていないと気がすまない人が多く、なにかにイライラし続けているようにも見える損な類型です。</p> <p>全員ではないですが、この類型に属する人の多くが早口で、相手がまだ話しているのに、それを最後まで聞かずに割り込んで話してしまうような傾向があります。それゆえ、社会性はかなり低いと言わざるを得ない類型です。組織の中では浮いてしまうか、嫌われるか、恐れられるかが多いです。</p> <p>一方で、能力的には優れている人が多く、努力家でもあるため、良い結果を出すことが多いです。ただ、自分が努力家であるがゆえに、それを他人にも求めてしまう傾向が強いため、部下を言葉で追い詰めてしまったり、異常なスピード感（本人にとっては普通のスピード）を強要してしまったりします。</p> <p>そのため、あまり管理職には向いていませんが、結果は出すので管理職に任命されてしまう人が多い類型です。部下からするととても厄介な上司ですが、経営者からすると、とても重宝される人材という感じでは。したがって、結果だけが重視される職場では、すぐに出世する傾向があります。</p> <p>向いている職種は、経営者、自営業者、コンサル職、不動産営業、IT 営業などです。</p> <p>なお、対人関係を良好に保つスキルはほとんどないため、人間関係を重視する職場では若干相性が悪いです。</p>
効率型	<p>効率型 DD は、せっかちに加えて、合理主義でもあります。この類型の特徴が強い人は、自分にとって利がないことを徹底して避ける傾向があり、しかも、その避け方が上手です。それゆえ、お得な人生を歩む事が多い類型です。自分にとって利益となることを見抜く才能がずば抜けて高いため、上手に人生を渡り歩いていきます。</p> <p>ただし、一部の人にはそれが「ズルい行為」に見えてしまうことがあるため、一部の人はとても嫌われやすい類型といえるでしょう。</p> <p>そういう相性の悪い人が上司になってしまうと、この類型の才能は潰されます。そのため、上司との相性が良い職場に行くことが最も</p>

	<p>重要なので、直属の上司との面談は必ずさせたほうが良いでしょう。</p> <p>このタイプの向いている職種はたくさんありますが、特に適性が高い職種は、効率的かつ迅速な事務処理が求められる職種です。例えば、各種専門職（経理・財務・エンジニア・法務・技術職など）の適性が特に高く、金融系の高度な知識が必要とされる職種やテレマーケティング部門の管理職などもこなせるでしょう。</p> <p>本来持っている能力はかなり高いタイプであるため、どのような職種でも活躍できる可能性が高いです。本人が何に対して興味を持つかわからないので、迷ったらとりあえず提案してみるというスタンスでも大丈夫なタイプです。</p>
外見型	<p>外見型 DD は、せっかちな DD 型の特徴に加えて、他人の評価や視線を気にしやすい傾向を持っています。そのため、自分のことをかなり好きな人が多く、注目されたい、評価されたい、認められたいという欲求が強い傾向があります。その傾向が強いがゆえに、人並み以上の努力と行動をするのですが、承認欲求が行き過ぎると対人関係が悪化しやすくなります。</p> <p>このタイプで特に多いのは、自慢ばかりしてしまう人です。自分の過去の業績や功績を若干盛って話す傾向があり、しかも、同じ自慢話を何度も繰り返してしまいがちです。それによって同僚や部下が辟易してしまうことがあります。</p> <p>周りから適度に認められていればそういう厄介な特徴も抑えられるのですが、承認欲求があまり満たされない状態が続くと、暴走してしまいがちです。そのため、このタイプの人材を部下に持つ場合は、若干手を焼くことがあるかもしれません。</p> <p>ただ、元々持っているポテンシャルは高いので、育て方を間違わなければ優秀な人材に成長していきます。</p> <p>適性の高い職種は、知的コンサル職（経営コンサルや IT コンサル等）、専門知識が必要となる営業職（不動産や IT など）、各種専門職（経理・財務等）です。</p>
情報型	<p>情報型 DD は、DD 型の中で、知識分野で優れた人材が多いタイプです。このタイプの特徴が強い人は、学ぶことや調べることに特化した能力を持っていることが多いため、知的専門職として活躍する人が多いです。そのため、経理・財務・法務・経営企画・経営コンサルタントなどの職種に多いタイプです。</p>

	<p>若い頃からその資質が芽生えていることが多いため、できる限り経営に近いポジションまたは専門職となれるポジションに配置した方が才能を開花させやすいでしょう。</p> <p>この類型は、自分の特性や能力について、若い頃から自覚している人も多いため、自ずと専門職に興味を持つようになります。キッカケさえあれば深く学び始めるため、そのキッカケを与えてあげれば勝手に成功していきます。</p> <p>この類型の転職は、本人が興味を持てるかどうかはほぼ全てなので、興味を持ってもらえそうな職種は全部紹介してしまった方が良いでしょう。</p> <p>適性職種は、前述した経理・財務・法務・経営企画等です。コンサル職には特に適性が高いため、活躍する可能性が高いです。</p>
平和型	<p>平和型 DD は、DD 型の中では最もせっかち度が低い類型で、比較的落ち着いています。</p> <p>もちろん、DD 型なので、一般的な人の中ではかなりせっかちな方に属しますが、DD 型系統の中では一番マシです。周りに合わせて思考速度を落としたり、ゆっくり話したりすることができる人が多いので、DD 型系統の中ではかなり接しやすいです。</p> <p>また、周りの人間の感情や立場にも少しは配慮できる人が多いため、若くして出世できる人も多い類型の一つです。どこの職場でも活躍し得る人材なので、本人の興味のある分野であれば、どの職種でも適応可能です。</p> <p>適性職種は、管理職、経営コンサルタント、各種専門職、技術職です。</p>

以上